

# 八坂末安遺跡

福岡県小郡市八坂所在遺跡の調査報告  
小郡市文化財調査報告書 第215集

2007

小郡市教育委員会

## 〈序 文〉

これまで小郡市では、北部丘陵における大規模な宅地開発（小郡・筑紫野ニュータウン）や小郡駅前再開発、干潟や上岩田の工業団地建設など、様々な計画的な都市整備が行われ、経済的な発展を遂げてきました。それらに伴う大規模な発掘調査も実施され、各所で貴重な考古学的資料の発見が相次ぎ、全国的に周知されてきております。そうした資料は、小郡市自体の歴史を復元するのに欠かせないもので、後世に伝えるべき共有の財産といえます。

今回ここに報告いたします「八坂末安遺跡」は、宅地造成に際して事前に行った埋蔵文化財の発掘調査によるものです。調査地のある味坂地区では、これまで発掘調査がほとんど実施されていなかった地域であるため、新たな調査成果があがることが期待されました。調査の結果、中世前期に遡る集落や、近世後期ごろから近代にかけての水路を確認することができました。いずれも、これまで全く知られていない発見で、この成果が中・近世研究に資するところがあれば望外の喜びです。

最後になりましたが、発掘調査にあたりましては昭和建設株式会社代表取締役社長 戸田誠二氏をはじめとして関係諸機関、地元八坂区の方々にも多大なる御協力を賜りましたことを、心より感謝申し上げます。

平成19年3月31日

小郡市教育委員会

教育長 清武 輝

## 〈例 言〉

1. 本書は、小郡市八坂580-1・2、581、582に所在する八坂末安遺跡において、昭和建設株式会社による宅地造成に伴い、平成18年度に小郡市教育委員会が委託を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2. 本書に掲載した遺構の実測図は下原幸裕・天野 薫・柿本 慈・山田和子、遺物の実測並びに製図は柿本が行った。なお、遺跡全体の実測は、株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
3. 本書に掲載した遺構の写真は下原が撮影し、遺物の写真はフォトハウスOKAに委託した。
4. 本書で示した北は座標北を基準とし、図上の座標は国土座標に拠っている。なお、土層図および断面図中に示した「E」「W」などの方位は、調査区の短辺を東西とした場合の方位であって、厳密に正方位を示すものではない。
5. 図版中の遺物に付されている数字は、本文中の実測図番号に対応する。
6. 本書で用いた標高は、東京湾平均海面（T.P.）を基準としている。
7. 本書で用いた遺構略号はD（溝）、E（井戸）、K（土坑）、P（ピット）である。
8. 本遺跡より出土した一部の遺物（陶磁器）について、佐賀県立九州陶磁文化館館長の大橋康二氏に生産地・製造年代について御教示いただいた。記して感謝申し上げたい。
9. 本書に掲載した遺構・遺物実測図、写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて保管している。
10. 本書の執筆・編集は、下原・佐藤が行った。

## <本文目次>

I. 調査の経過と組織	
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の経過	1
3. 調査組織	2
II. 立地と環境	
1. 地理的・歴史的環境	2
III. 調査の内容	
1. 調査の概要	3
2. 遺構と遺物	
(1) K：土坑	4
(2) E：井戸	9
(3) D：溝	9
(4) P：ピット	10

## <挿図・表目次>

第1図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	2
第2図 調査区位置図 (1/2,500)	3
第3図 K実測図① (1/50)	6
第4図 K実測図② (1/50)	7
第5図 K実測図③ (1/50)	8
第6図 E実測図 (1/50)	9
第7図 D-1実測図 (1/60)	11
第8図 D-1土層図 (1/50)	12
第9図 D断面図及び土層図 (1/50、配置図1/200)	13
第10図 K出土土器・陶磁器実測図① (1/3)	14
第11図 K出土土器・陶磁器実測図② (1/3)	15
第12図 K出土土器・陶磁器実測図③ (1/3・※1/4)	16
第13図 D出土土器・陶磁器実測図① (1/3・※1/4)	17
第14図 D出土土器・陶磁器実測図② (1/3・※1/4)	18
第15図 E・P出土土器・陶磁器実測図 (1/3)	19
付 図 八坂末安遺跡全体遺構配置図 (1/100)	
K：土坑一覧表①②	4～5
出土遺物観察表①～⑤	20～24

## <図版目次>

図版 1	①調査区全景（東側上空より） ②調査区全景（真上より）	
図版 2	①K-2~4 ②K-7・8 ③K-8 ④K-9~12	⑤K-16・17 ⑥K-17~21 ⑦K-27・28 ⑧K-29・30
図版 3	①K-26周辺 ②K-34 ③K-39 ④K-47	⑤K-61・D-8土層 ⑥E-1土層 ⑦E-1 ⑧E-2土層
図版 4	①E-2、D-6 ②D-1 ③D-1護岸柵列 ④D-1護岸柵列	⑤D-1護岸柵列裏側土層 ⑥D-1南北土層 ⑦D-1東西土層 ⑧D-1東西土層
図版 5	①D-4・5 ②D-6 ③D-8・9土層 ④D-8・9他	⑤D-10調査区北壁土層 ⑥D-10調査区南壁土層 ⑦D-11・12 ⑧作業風景
図版 6	K出土土器・陶磁器	
図版 7	K出土土器・陶磁器	図版 8 K出土土器・陶磁器
図版 9	K・E・D出土土器・陶磁器	図版 10 D出土土器・陶磁器
図版 11	D出土土器・陶磁器	図版 12 D・P出土土器・陶磁器

## I. 調査の経過と組織

### 1. 調査に至る経緯

八坂末安遺跡の調査は、小郡市八坂580-1・2、581、582（2,188.70㎡）における昭和建設株式会社による宅地造成に先立って、小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の有無について照会があったことに始まる。平成17年12月13日に小郡市教育委員会が該当地の試掘調査を行い、工事対象地の全面に遺構の広がりを確認した（審査番号05148）。昭和建設との協議の結果、住宅建設部分については盛土による遺跡の保護を行い、道路敷設部分についてのみ開発に先立ち発掘調査を行うこととなった（平成18年4月3日付発掘調査委託契約）。

### 2. 調査の経過

発掘調査は、平成18年4月17日より表土剥ぎを開始した。19日からは作業員による遺構の検出・掘削を行い、併行して実測作業も進めた。調査地は水位が高いこともあり、水中ポンプによる汲出しを行いながらの調査となった。6月1日にはラジコンヘリコプターによる空撮を実施し、その後一部遺構の掘削と実測を行った。6日には重機による埋め戻しを開始し、7日には埋め戻しを完了、現場での調査を全て終了し、撤収した。

現地調査終了後は、小郡市埋蔵文化財調査センターにて図面整理と遺物整理を行った。調査報告書の作成・編集は、平成18年7月から行い、年度内に刊行した。

### 3. 調査組織

発掘調査の組織は、以下の通りである。

小都市教育委員会	教育長 清武 輝	文化財課	課 長 田竈千代太
教育部	部 長 高木良郎		係 長 片岡宏二
			嘱 託 下原幸裕

[発掘・整理作業]

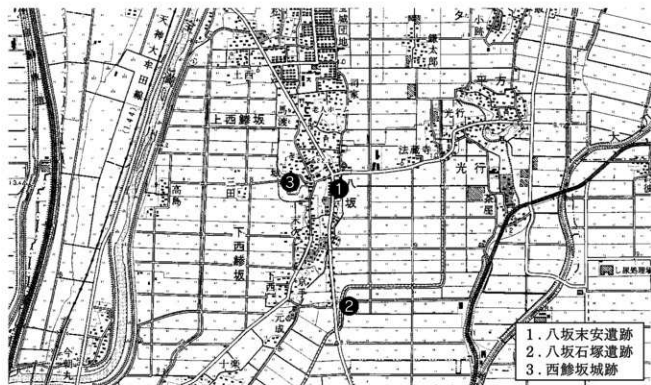
天野薫・岩橋光恵・牛島信雄・大石博子・古賀恵昭・重松栄子・柴田澄子・高松勝義・高松トミカ・高松ヨシエ  
中島圭・中原佐代子・野田美根子・松田徳代・松本スマ子・森本千慧子・山田和子・米倉ヨシ子

## II. 位置と環境

### 1. 地理的・歴史的環境

八坂末安遺跡は、小都市の中心を南流する宝満川の左岸にあり、宝満川のかつての流れによって「用丸—味坂—元成—十楽—赤川」と南北方向に形成された自然堤防上に位置する。標高はおよそ8.5mほどで、自然堤防上とはいえ周囲に広がる水田との比高差はあまりなく、微高地状を呈する。

遺跡のある味坂地区は、これまでほとんど発掘調査が及んでいない地域だが、唯一実施された八坂石塚遺跡の発掘調査では、3次にわたる調査によって、弥生時代中期～後期の集落と、古墳時代後期の集落が発見され、はじめて明確な遺構を伴う遺跡の発見となった。古代末から中世にかけては、御井郡河北郷から三原郡南部にまたがる庄園「鯉坂庄」(40町)が経営されたことが文献から明らかで、庄園の範囲は、上西鯉坂・下西鯉坂の付近から久留米市宮ノ陣町一帯と推定されている。四条家を領家、東寺宝荘厳院を本家とした寄進地系庄園とされ、領家はその後鷲尾家に移り、室町時代には筑後国守護の大友氏が経営し、50町が大友氏の支配拠点であった立花城(福岡市東区・新宮町・久山町)の城料となる。『太平記』によれば、南朝正平14年(1359)に菊池氏と少弐氏とが戦った大保原合戦の際、少弐方が「味坂庄」に陣を置いたという。なお、「筑州鯉坂住源安盛」[応永丁未仲秋日](応永34年[1427])の銘を持つ短刀が久留米市文化財収蔵館に収蔵されており、鯉坂刀工の存在が窺える。



第1図 周辺遺跡分布図(1/25,000)

同時期の遺跡を概観すると、同じ宝満川左岸では稲吉元矢次遺跡がある。12世紀前半～14世紀の屋敷地が営まれ、輸入陶磁器・国産陶器・瓦器・土師器・瓦・石製品・鉄製品・鉄洋などが多量に出土した。大崎遺跡1では12世紀前半の井戸を皮切りに、12世紀後半に大溝が掘削されて屋敷地が形成され、多数の輸入陶磁器が出土した。小郡正尻遺跡では11世紀中頃～14世紀後半の溝・土坑から、同安窯系青磁や龍泉窯系青磁・白磁・瓦質土器・東播系播鉢・土師器などが出土し、小郡堂の前遺跡からも龍泉窯系青磁が出土した。福童山の上遺跡2では13世紀の溝・土坑・ピットなどから、龍泉窯系青磁・青白磁・白磁・東播系播鉢・石鍋・掛仏・釘・砥石などが出土した。小郡野口遺跡では14世紀中頃～15世紀の土坑・井戸・溝・ピットなどから、土師器小皿・鍋・瓦器・備前窯播鉢、龍泉窯系青磁・高麗青磁・白磁・染付・石臼の他、鞆の羽口や五輪塔（火輪のみ）などが出土した。この他、小坂井運輪遺跡や小坂井屋敷遺跡などで12世紀後半の井戸・溝・土坑・ピット、大崎東柿添遺跡では14世紀前半ごろの溝・土坑が確認された。なお、正式な発掘調査は行われていないが、八坂末安遺跡の西に西鯉坂城跡がある。

### III. 調査の内容

#### 1. 調査の概要

発掘調査面積は約330㎡である。調査地は、数次にわたる盛土整地が行われ、地表より厚さ0.6～0.8mは近代以降の整地土であった。その下層にふい灰褐色土の遺物包含層があるが、この層中には中世期の遺物が多数含まれることから、中世以降に一度整地が行われたものとみられる。包含層の広がりには調査区の東半分のみならず、地形自体が東へ下がっていくことから、東側をとくに整地したものと考えられる。この包含層の下に明黄褐色～明灰黄褐色を呈する地山面があり、遺構の大半はこの面で検出した。

遺構は、近世後半～近代の溝1条を除き、いずれも中世期の所産である。中世の遺構は、溝12条、井戸2基、土坑61基、ピット202基を数え、調査区内でも標高が高い中央部に密集する傾向が認められる。遺物は、白磁や青磁などの貿易陶磁器をはじめ、土師器・瓦器などが各遺構から出土した。



第2図 調査区位置図(1/2,500)

## 2. 遺構と遺物

### (1) K:土坑

土坑として取り扱ったものは61基で、詳細は以下の表にまとめた。

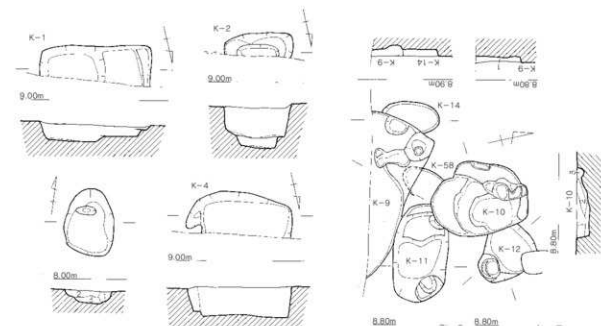
土坑番号	図面番号	図版番号	形状説明等	計測値	出土遺物
K-1	第3図	-	平面長方形を呈し、東に向かって三段掘りをなす。	長さ1.46m・幅0.54以上・深さ0.2m	第10図
K-2	第3図	図版2①	平面長方形を呈し、中央部が低くなる。	長さ0.9m・幅0.31m以上・深さ0.51m	出土遺物無し
K-3	第3図	図版2①	平面は不整形な楕円形を呈する。	長さ0.89・幅0.65m・深さ0.19m	土師器等小片のみ
K-4	第3図	図版2①	平面は概ね長方形を呈し、東側の一部が不整形に広がっている。	長さ1.4m・幅0.56m・深さ0.42m	出土遺物無し
K-5	第3図	-	浅い溝状の土坑。	長さ1.61m・幅0.36m・深さ0.07m	第10図
K-6	全体図	-	K7に切られ、平面は長楕円形を呈する。	長さ0.95m・幅0.49m以上・深さ0.11m	土師器等小片のみ
K-7	第3図	図版2②	K8に切られ、平面は北側が広がる隅丸の台形状を呈する。	長さ3.1m以上・幅2.2m・深さ0.07~0.11m	第10図
K-8	第3図	図版2③	不整形な円形に復元され、底面にかけで数段にわたり掘り下げられる。	径2.24m・深さは最深部で0.6m	第10図
K-9	第3図	図版2④	調査区壁にかかると、長方形土坑と推定される。	長さ2.08m以上・幅0.96m以上・深さ0.09m	土師器等小片のみ
K-10	第3図	図版2④	平面は不整形な楕円形を呈する。	長さ1.28m・幅0.98m・深さ0.19m	第10図
K-11	第3図	-	平面は楕円形を呈する。	長さ1.28m・幅0.71m・深さ0.39m	第10図
K-12	第3図	図版2④	平面は不整形な楕円形を呈する。	長さ0.82m・幅0.68以上・深さ0.22m	第11図
K-13	第3図	-	平面は楕円形を呈する。底面は2ヶ所に帯状の掘り込みを有する。	長さ0.8m・幅0.49m・深さ0.35m	第11図
K-14	第3図	-	K9に切られ、平面は楕円形を呈する。	長さ0.76m以上・幅0.42m以上・深さ0.1m	土師器等小片のみ
K-15	第3図	-	K16に切られ、平面は隅丸長方形を呈する。	長さ0.88m以上・幅0.36m・深さ0.14m	土師器等小片のみ
K-16	第3図	図版2⑤	近代の井戸に切られる。平面は不整形な長方形を呈する。	長さ1.27m・幅1.22m・深さ0.52m	第11図
K-17	第3図	図版2⑤	平面は長楕円形を呈する。底面は二段掘りで北側が一段低くなる。	長さ1.3m・幅0.5m・深さ0.19m	土師器等小片のみ
K-18	第4図	図版2⑥	平面は長方形を呈する。	長さ1.12m・幅0.65m・深さ0.39m	土師器等小片のみ
K-19	第4図	図版2⑥	平面は不整形な楕円形を呈する。	長さ0.9m・幅0.5m・深さ0.16m	第11図
K-20	第4図	図版2⑥	全体像は不明だが、平面は楕円形を呈する。	長さ0.67m・幅0.36m以上・深さ0.64m	土師器等小片のみ
K-21	第4図	図版2⑥	平面は隅丸長方形をなす。底面に3ヶ所ビット状の掘り込みを有する。	長さ0.84m・幅0.52m・深さ0.16m	土師器等小片のみ
K-22	第4図	-	平面は不整形な楕円形を呈する。	長さ0.77m・幅0.4m・深さ0.35m	第11図
K-23	第4図	-	D2に切られる。平面は隅丸長方形を呈する。	長さ0.86m以上・幅0.69m・深さ0.2m	土師器等小片のみ
K-24	第4図	-	D2に切られるが、平面は隅丸長方形を呈する	長さ0.79m・幅0.42m以上・深さ0.25m	土師器等小片のみ
K-25	第4図	-	平面は楕円形を呈する。	長さ0.72m以上・幅0.5m・深さ0.21m	第11図
K-26	第4図	図版3①	平面は不整形な長方形を呈する。底面に2ヶ所ビット状の掘り込みを有する。	長さ1.0m・幅0.74m・深さ0.05m	土師器等小片のみ
K-27	第4図	図版2⑦	平面は帯状を呈する。	長さ1.18m・幅0.25m・深さ0.03m	第11図
K-28	第4図	図版2⑦	平面は長方形気味の楕円形を呈する。	長さ1.4m・幅0.96m・深さ0.11m	第11図
K-29	第4図	図版2⑧	平面は不整形な楕円形を呈する。	長さ1.87m・幅1.28m・深さ0.11m	第11図

K:土坑一覧表①

土坑番号	図面番号	図版番号	形状説明等	計測値	出土遺物
K-30	第4図	図版2⑧	K29の埋没後に重複して営まれる。平面は円形を呈する。	径0.61～0.68m・深さは0.24m	土師器等小片のみ
K-31	第4図	-	隅丸方形を呈する。	一辺0.82～0.94mの、深さは0.1m	土師器等小片のみ
K-32	第4図	-	調査区壁にかかるため全体は不明だが、平面は隅丸長方形と推定される。	長さ1.06m・幅0.37m以上・深さ0.25m	第11図
K-33	第4図	-	中央部にビット状の掘り込みが有り。	長さ0.62m以上・幅0.44m・深さ0.07m	土師器等小片のみ
K-34	第4図	図版3②	平面は不整形な楕円形を呈する。埋土中には炭や灰が多く含まれ、發土の塊が散つておぼろげに認められる。	長さ1.04m・幅0.76m・深さ0.29m	第11図 土師器皿が底面付近から出土
K-35	第4図	-	平面は長楕円形を呈する。底面にかけて三段掘りをなす。	長さ1.06m・幅0.36m・深さ0.43m	第11図
K-36	第4図	-	全体像はつかめないが、平面は楕円形を呈する。	長さ0.56m・幅0.37m・深さ0.14m	第11図
K-37	第4図	-	平面は楕円形を呈する。底面は数段に掘られ、東側がビット状に深くなる。	長さ1.02m・幅0.64m・深さ0.4m	土師器等小片のみ
K-38	第4図	-	一部調査区外にのびるが、平面は帯状を呈する。	長さ1.0m・幅0.26m・深さ0.08m	土師器等小片のみ
K-39	第4図	図版3③	K37に切られる。平面は一方が開き気味の長方形を呈する。	長さ2.01m・幅1.18m・深さ0.11m	第12図
K-40	第5図	-	D3に一部切られる。平面は不整形な楕円形と推定される。	長さ0.6m以上・幅0.88m・深さ0.24m	第12図 底面に推して土師器皿・瓦器碗が出土
K-41	第4図	図版2⑦	K28に切られる。平面は略円形を呈する。	長さ0.55m・幅0.6m・深さ0.36m	土師器等小片のみ
K-42	第5図	-	内容は明確でないが、平面は不整形な帯状を呈し、底面は段掘りになっている。	長さ1.44m以上・幅0.65・深さ0.16m	第12図
K-43	第4図	図版3①	別遺構に切られる。平面は略三角形を呈する。	長さ0.88m以上・幅0.67m以上・深さ0.06m	出土遺物無し
K-44	第5図	図版3①	平面は隅丸の三角形を呈する。	長さ0.8m・幅0.74m・深さ0.06m	土師器等小片のみ
K-45	第4図	-	大半はK37と重複している。平面は不整形な楕円形を呈し、底面は二段掘りをなす。	長さ0.71m・幅0.61m・深さ0.2m	瓦器・磁器小片のみ
K-46	第5図	-	一部K39に切られる。平面はいびつな帯状を呈する。	長さ1.06m・幅0.49m・深さ0.06m	土師器等小片のみ
K-47	第5図	図版3④	平面は不整形な楕円形を呈する。	長さ1.31m・幅1.17m・深さ0.18m	第12図
K-48	第5図	図版3①	平面は楕円形を呈する。	長さ1.21m・幅0.66m・深さ0.16m	第12図
K-49	第5図	-	調査区壁にかかるが、平面は隅丸長方形と推定される。	長さ0.55m以上・幅0.42m・深さ0.35m	第12図
K-50	第5図	-	D4に切られているが、平面は不整形円形に復元できる。	径0.71m・深さ0.09m	土師器等小片のみ
K-51	第5図	-	調査区壁にかかるが、平面は不整形楕円形を呈する。	長さ0.76m以上・幅0.65m・深さ0.06m	土師器等小片のみ
K-52	第5図	-	調査区壁にかかるが、平面はやや不整形な隅丸長方形か、隅丸方形を呈すると推定される。	長さ1.12m・幅0.68m以上・深さ0.12m	土師器等小片のみ
K-53	第5図	-	K61に切られる。平面は長楕円形に復元できる。	長さ1.0m以上・幅0.58m・深さ0.17m	第12図
K-54	第5図	-	平面は長楕円形を呈する。底面は一部ビット状に深くなる。	長さ0.92m・幅0.4m・深さ0.1m	土師器等小片のみ
K-55	第5図	図版5④	平面は楕円形を呈する。	長さ0.92m・幅0.7m・深さ0.15m	第12図
K-56	第5図	図版5④	平面は隅丸長方形を呈する。	長さ1.91m・幅0.8m・深さ0.29m	土師器小片のみ
K-57	第5図	-	平面は不整形な略方形を呈する。	長さ1.03m・幅0.92m・深さ0.23m	第12図
K-58	第3図	-	全体像はつかめないが、円形状の土坑に復元できる。	径0.8m・深さ0.06m程度	土師器等小片のみ
K-59	第5図	-	底面の中央がビット状に掘りこまれる。	長さ0.92m・幅0.75m・深さ0.09m	陶器小片のみ
K-60	第5図	-	調査区壁にかかるが、平面は隅丸長方形気味。	長さ0.88m・幅0.58m・深さ0.06m	土師器等小片のみ
K-61	第5図	図版3⑤	平面は不整形な隅丸長方形を呈する。	長さ3.27m以上・幅1.82m・深さ0.77m	第12図

K:土坑一覧表②





**K-3 土層**

- 1 暗灰褐色土(やや炭多し含む、締まり良し、やや砂多し)
- 2 明灰褐色土(粘質、締まり良し)
- 3 暗灰褐色土(若干砂混じり、炭粒を含む)

**K-5 土層**

- 1 明灰褐色粘質土(炭く締まる、地山ブロック若干含む)
- 2 明灰黄褐色粘質土(炭く締まる、地山ブロック多く含む)

**K-9 土層**

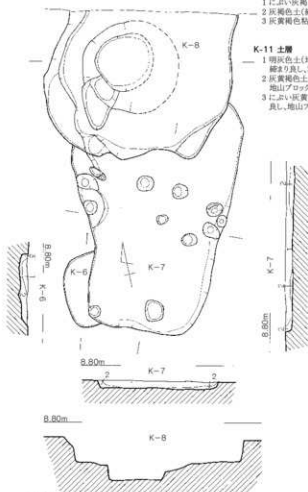
- 1 灰褐色粘質土(炭を若干含む、やや締まり無し)

**K-10 土層**

- 1 に、い灰褐色土(締まり良し、地山ブロック若干含む、炭含む)
- 2 灰褐色土(締まり良し、炭含む)
- 3 灰黄褐色粘質土(地山ブロックやや多く含む、締まり良し、炭含む)

**K-11 土層**

- 1 明灰土(地山ブロック若干含む、締まり良し、粘質、炭含む)
- 2 灰黄褐色土(粘質、締まり良し、地山ブロック含む)
- 3 に、い灰黄褐色土(粘質、締まり良し、地山ブロック含む)



**K-6 土層**

- 1 明灰褐色土(締まり良し、若干地山ブロック含む)
- 2 に、い灰黄褐色土(締まり良し、地山ブロック含む)
- 3 灰褐色土(締まり良し、炭粒を含む)

**K-7 土層**

- 1 灰褐色粘質土(締まり良し、地山ブロック若干含む)
- 2 灰黄褐色粘質土(締まり良し、炭・焼土粒含む)



**K-11**

**K-12**



**K-13**

**K-14**



**K-5**

**K-6**



**K-16**

**K-17**



**K-15**

**K-16**



**K-15**

**K-16**



**K-15**

**K-16**



**K-15**

**K-16**



**K-15**

**K-16**



**K-15**

**K-16**



**K-15**

**K-16**



**K-15**

**K-16**



**K-15**

**K-16**

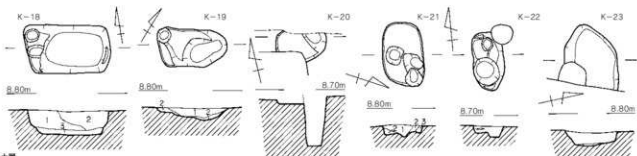
**K-15 土層**

- 1 灰黄褐色粘質土(締まり良し、地山ブロック若干含む、炭含む)
- 2 に、い灰褐色粘質土(締まり良し、地山ブロック含む)

- K-17 土層**
- 1 灰土(締まりやや良し、粘質、炭粒含む)
  - 2 灰黄褐色粘質土(締まり良し、地山ブロック含む)
  - 3 明灰褐色粘質土(やや締まり無し、炭含む)
  - 4 灰褐色粘質土(炭く締まる、地山ブロック若干含む)



第3図 K実測図① (1/50)



K-18 土庫

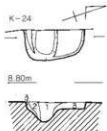
- 1 灰黄褐色粘質土(地山ブロック含む、締まりよし)
- 2 明灰黄褐色粘質土(締まりよし、地山ブロック多く含む、炭含む)
- 3 灰褐色粘質土(締まりよし)

K-19 土庫

- 1 明灰褐色粘質土(良く締まる、地山ブロック若干含む、炭含む)
- 2 2 におい灰褐色粘質土(締まりよし、地山ブロック多く含む)

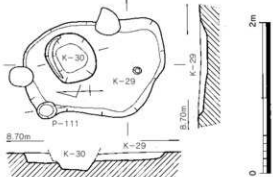
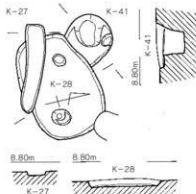
K-21 土庫

- 1 明灰褐色粘質土(締まりよし、地山ブロック若干含む、炭含む)
- 2 灰黄褐色粘質土(良く締まる、地山ブロック若干含む)
- 3 明黄褐色粘質土(締まりよし、地山ブロック多く含む)



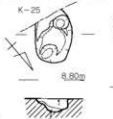
K-24 土庫

- 1 灰褐色粘質土(やや締まる、地山ブロック若干含む、炭含む)
- 2 2 におい灰褐色粘質土(やや締まる、地山ブロック若干含む、炭含む)
- 3 3 におい灰黄褐色粘質土(締まりよし、地山ブロック多く含む)



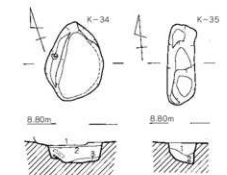
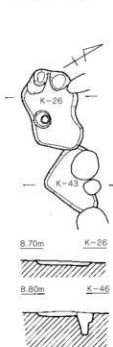
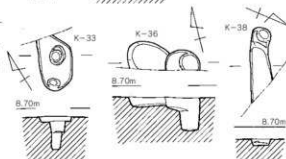
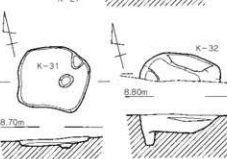
K-30 土庫

- 1 灰褐色粘質土(やや締まる、炭含む)
- 2 2 におい灰黄褐色土(やや締まる、地山ブロック若干含む)



K-25 土庫

- 1 灰黄褐色粘質土(締まりよし、地山ブロック多く含む)
- 2 灰褐色粘質土(締まりよし、地山ブロック若干含む)

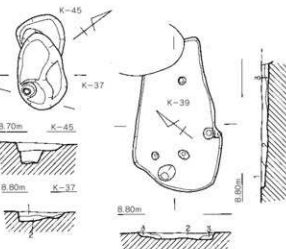


K-34 土庫

- 1 灰褐色土(やや締まる、炭含む)
- 2 黒褐色土(やや締まり無し、炭含む、地山ブロック若干含む)
- 3 暗灰褐色土(締まりよし、地山ブロック若干含む)

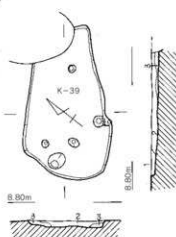
K-35 土庫

- 1 1 におい灰黄褐色粘質土(良く締まる、炭含む)
- 2 灰黄褐色粘質土(良く締まる、地山ブロック含む)



K-37 土庫

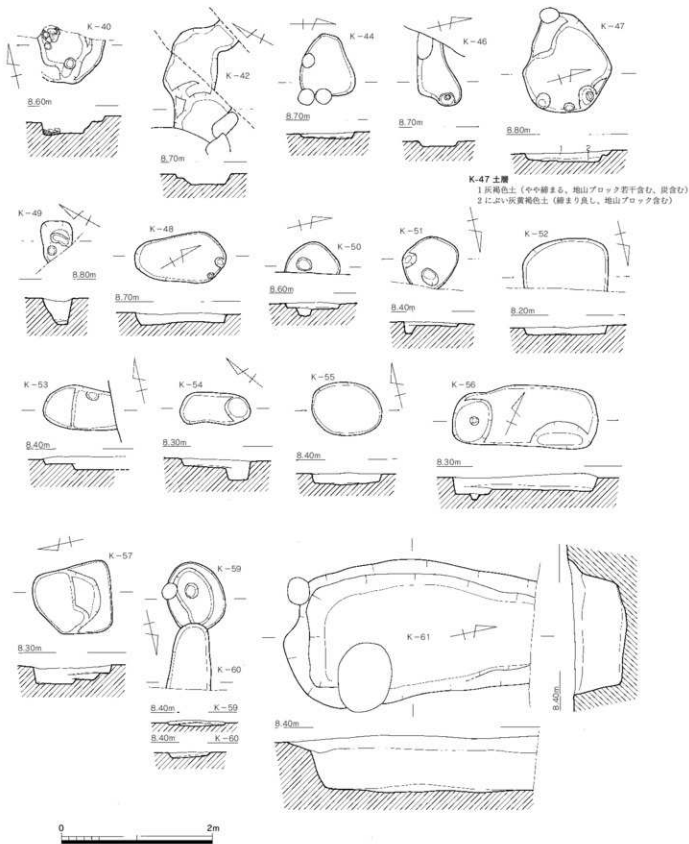
- 1 暗灰褐色土(やや締まる、地山ブロック若干含む、炭含む)
- 2 2 におい灰黄褐色土(締まりよし、地山ブロック多く含む、炭含む)



K-39 土庫

- 1 明灰褐色土(やや締まる、地山ブロック若干含む)
- 2 黒灰褐色土(やや締まる、地山ブロック若干含む、炭を多く含む)
- 3 3 におい灰黄褐色土(良く締まる、地山ブロック若干含む)

第4図 K実測図② (1/50)



第5図 K実測図③ (1/50)

## (2) E: 井戸

E-1 (第6図、図版3⑥⑦) 調査区のほぼ中央に位置し、平面は東西2.24m×南北2.07mの楕円形を呈する。深さは1.08mで、底は平坦になっており、断面は逆台形を呈する。掘削の段階で1、2点の小枝が出土したが、井戸枠やその痕跡は確認できず、素掘りの井戸であったと考えられる。特に、第4層の半ばで地山の下層にある砂層に達し、水が湧き出してくる状況であった。ただし、湧き出すとはいえ溢れ出すほどではなく、砂層より上には溜まらず、遺構一杯に溜まるのは降雨があった時に限られる。なお、周囲に幾つかピットがあるが配置に規則性が見出せず、覆屋のような構造物の存在は確認できなかった。遺物は、上層で多く出土する傾向があり、青磁・瓦器・土師器・須恵器が出土している。

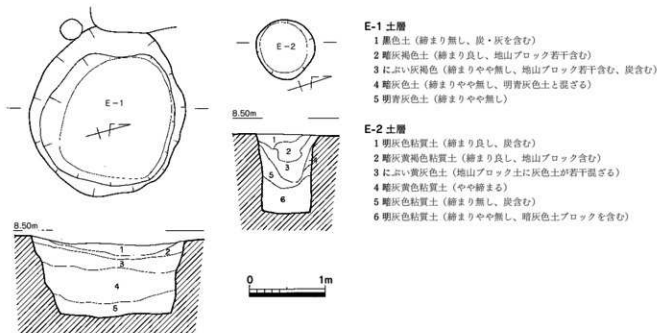
E-2 (第6図、図版3⑧・4①) 規模はE-1に比べ小規模で一見他の土坑とも大差がないが、にぶい黄褐色の地山土より下の砂層まで掘り込んでいる点を考えると、井戸と解釈するのが妥当だろう。直径は約0.82mで、深さ1.05mを測る。底は概ね平らで、砂層に達した時点で水が湧き出すが、やはり雨でもない限り砂層よりも高いところまでは溜まらなかった。また、ここでも井戸枠などの構造物を確認することはできず、素掘りのタイプと考えられる。さらに覆屋を示す柱穴等も確認できなかった。遺物は、土師器や陶器が出土している。

## (3) D: 溝

D-1 (第7・8図、図版4②～⑧) 調査区の西端に位置し、西側から東へ約10.5mのびて南へ折れる。溝の北面と東面には、木杭と竹を用いた柵列がめぐらせた護岸工事が行われている。杭には丸杭と角杭が併用され、溝の完掘後に一部掘り下げたが、杭の下端に達することができなかった。そのため長さは不明だが、1.4m以上あることは確かである。

溝の幅は、掘方で測ると西側で4.2～4.5m、南側は4.2mであるが、護岸の柵列からの幅を測ると西側で3.5～3.8m、南側で1.3mとなり、南側が極端に狭くなる。ただ、護岸の無い状態で見ると全体の規模が一定であること、南北の柵列が東西柵列の中途に接続することなどを考慮すると、南北の護岸柵列は改修時の設置である可能性が考えられる。なお、溝の深さは南側で約1.5mである。

調査地周辺はももとの水位が高く、1mほど掘ると水が染み出してくるため、D-1でも掘削作業が中ほどを過ぎたあたりから水が染み出してきた。したがって、単なる「溝」ではなくやはり「水路」として機能していたこ



第6図 E実測図(1/50)

とが窺える。ただ、溝の底の標高差をみると西側が10cm程度高いだけであり、実際に流水であったかどうかは判断し難い。

遺物は、下層よりも中層から上層にかけて多く出土した。一部中世期の遺物が混入しているが、概ね江戸後期から明治にかけての所産と考えられ、碗・皿・仏飯器などの磁器をはじめ、壺・鉢・甕などの陶器、鍋や焙烙などの土師器が出土した。以上の様相から、D-1は江戸時代後期に掘削され、明治時代前半にはほとんど埋没してしまつたものと考えられる。

D-2 (第9図) D-2は、長さ4m・幅0.3m・深さ0.03~0.09mと細く浅い形態を呈するが、上部を削平されているため、深さはもう少し上積みされる。遺物は、土師器皿が出土している。

D-3 (第9図) 長さ3.2m・幅0.7m・深さ0.03~0.06mで、やはり上部を削平されている。遺物は、瓦器碗が出土している。

D-4 (第9図、図版5①) 長さ4.9m・幅0.52~0.64m・深さ0.03~0.09mを測り、直線的にのびる。遺物は、青磁碗や土鍋等が出土している。

D-5 (第9図、図版5①) 調査区を縦断するため長さは5.8mしか確認できない。幅0.84~1.22mで、深さは地形が東へ下降していくため、西側の上端との比高差を測ると0.23~0.39mである。遺物は、土鍋等が出土している。

D-6 (第9図、図版5②) D-6は他の溝が直線的にのびるのに対して、おおよそL字状を呈する点に特徴がある。ちょうど井戸E-2を囲むようなめぐり方をするが、D-6の方が先行する。長さは約5.9mで、幅は0.42~0.56mだが東側は0.26mと細くなる。深さは0.06~0.17mを測り、上部を削平されており、東側の隅部付近が深くなる。遺物は、土師器皿や白磁・瓦碗等が出土している。

D-7 (第9図) 調査区にかかるため全体像はつかめないが、長さ1.8m・幅0.44~0.5m・深さ0.27~0.34mを測る。小規模ではあるが深さがあり、溝としたがるいは土墳墓である可能性も否定できない。遺物は、青磁碗や土師器杯・皿等が出土している。

D-8 (第9図、図版5③④) D-9を切るように掘削され、確認した長さは5.7mで、幅は0.66~1.2mで中程で若干細くなって南にむかって広がる。深さは0.06~0.18mである。遺物は、瓦器碗等が出土している。

D-9 (第9図、図版5③④) 確認した長さは5.7m、幅は0.52~0.8mである。深さは0.23~0.46mで、全体的に南へ傾斜する。若干弧を描くようにのびている。なお、一部において黄褐色を呈する地山の下層(砂層)まで掘り込んでいるため、その部分から水が染み出す。遺物は、青磁碗や土師器杯・皿等が出土している。

D-10 (第9図、図版5⑤⑥) 中世期に位置付けられる溝の中では最大である。調査区を縦断するため確認した長さは5.76mで、幅は北壁で1.94m、南壁で2.6mを測り、南にむかって広がる。深さは0.5~0.58mで、全体にほぼ平坦である。溝の底は、D-9と同様に砂層まで掘り込んでいるため、水が染み出してくる。遺物は、青磁碗や土師器等が出土している。

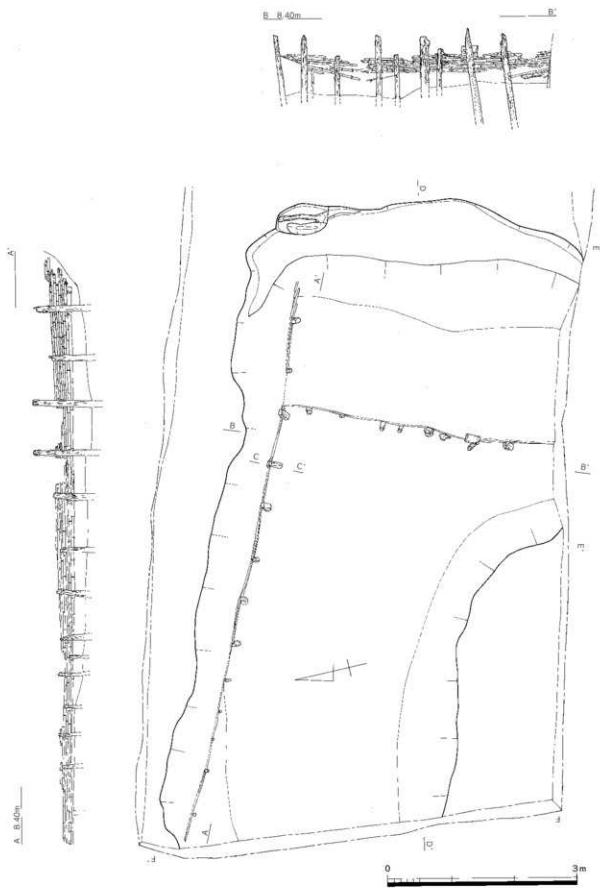
D-11 (第9図、図版5⑦) 検出した長さは4.52m、幅は0.95mを測る。深さは最大で0.18mで、底は南に向かって傾斜する。遺物は、火鉢の小片が出土している。

D-12 (第9図、図版5⑦) 調査区の最も東に位置し、長さ4.0m・幅0.3~0.56m、深さは最大0.07mを測る。遺物は、出土していない。

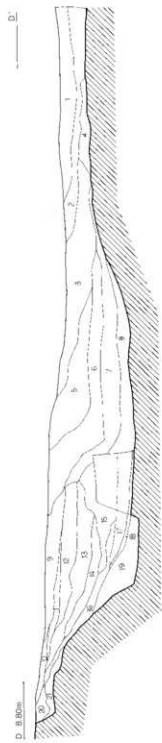
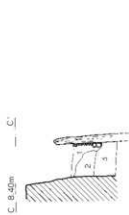
D-13 (第9図) かなり小規模であるが、埋土や規模がD-2と共通していることから溝とした。検出した長さは1.66mで、幅は0.36mである。上部を削平されているため深さは0.02~0.1mと浅く、南に向かって浅くなる。遺物は、土鍋等が出土している。

#### (4) P:ピット

調査では多数のピットを確認した。なかには建物の柱穴も含まれるだろうが、現状では規則性などを見出すことができず、建物の復元には至らなかった。紙幅の都合上、詳述は避け、出土遺物の実測図のみを掲載する。(第15図)

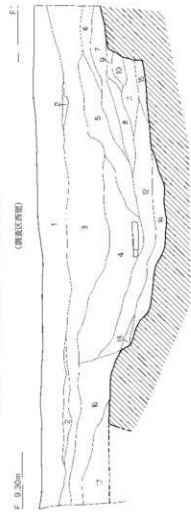
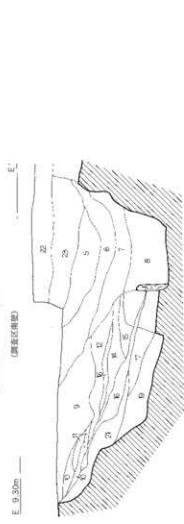


第7図 D-1 実測図 (1/60)

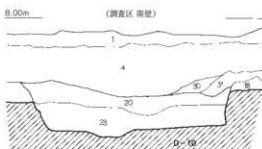
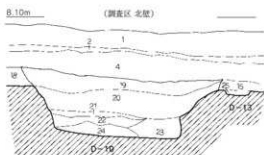
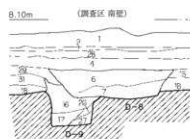
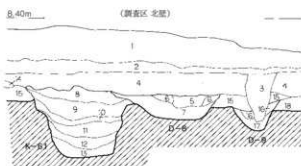
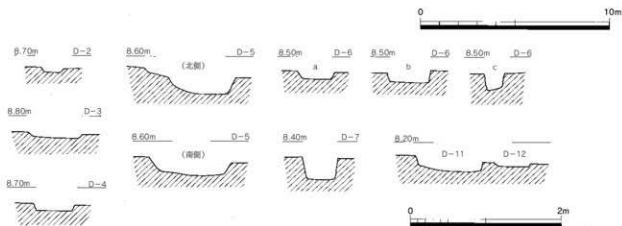
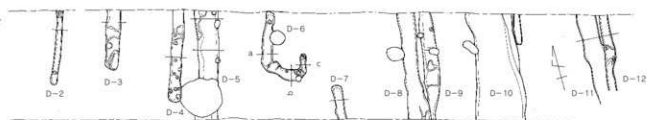


- F-F' 土層断面**
- 1 灰褐色土 (砂上層)
  - 2 黒褐色土 (砂面砂)
  - 3 上から灰褐色土 (地山アロワック若干含む、細粒方眼)
  - 4 上から灰褐色土 (粘質、地山アロワック若干含む、細粒方眼)
  - 5 明灰褐色土 (粘質、地山アロワック多含む、細粒方眼)
  - 6 灰褐色土 (粘質、中々細粒)
  - 7 中々細い灰褐色土 (粘質、細粒方眼)
  - 8 明灰褐色土 (地山アロワック含む、細粒方眼)
  - 9 黒褐色土 (地山アロワック含む、細粒方眼)
  - 10 灰褐色土 (地山アロワック含む、細粒方眼)
  - 11 明灰褐色土 (地山アロワック含む、中々細粒方眼)
  - 12 明灰褐色土 (粘質、中々細粒方眼)
  - 13 明灰褐色土 (粘質、地山アロワック若干含む)
  - 14 明灰褐色土 (粘質、中々細粒方眼)
  - 15 灰褐色土 (粘質、細粒方眼)
  - 16 明灰褐色土 (粘質、細粒方眼)
  - 17 地山：明灰褐色土 (細粒方眼)

- C-C' 土層断面**
- 1 明灰褐色土 (黄褐色砂質土を混じり、細粒方眼)
  - 2 地山：明灰褐色土 (中々砂質、細粒方眼)
  - 3 地山：黄褐色砂 (細粒方眼)
- D-D'・E-E' 土層断面**
- 1 明灰褐色土 (地山アロワック含む、細粒方眼)
  - 2 灰褐色土 (砂面砂)
  - 3 明灰褐色土 (砂面砂)
  - 4 明灰褐色土 (地山アロワック若干含む、細粒方眼)
  - 5 明灰褐色土 (中々砂質、中々細粒)
  - 6 黒褐色土 (砂面砂)
  - 7 明灰褐色土 (中々砂質、中々細粒)
  - 8 上から明灰褐色土 (黄褐色土質土を含む、細粒方眼)
  - 9 明灰褐色土 (砂面砂)
  - 10 黒褐色土 (砂面砂)
  - 11 明灰褐色土 (地山アロワック若干含む、細粒方眼)
  - 12 明灰褐色土 (地山アロワック若干含む、細粒方眼)
  - 13 明灰褐色土 (粘質、地山アロワック多含む、細粒方眼)
  - 14 明灰褐色土 (粘質、地山アロワック多含む、中々細粒)
  - 15 灰褐色土 (砂面砂)
  - 16 明灰褐色土 (中々砂質、細粒方眼)
  - 17 明灰褐色土 (中々砂質、細粒方眼)
  - 18 明灰褐色土 (砂面砂、小砂、竹葉含む、中々細粒)
  - 19 明灰褐色土 (砂面砂、細粒方眼)
  - 20 明灰褐色土 (粘質、地山アロワック若干含む、細粒方眼)
  - 21 明灰褐色土 (粘質、地山アロワック若干含む、細粒方眼)
  - 22 灰褐色土 (地山アロワック若干含む、中々細粒)
  - 23 明灰褐色土 (中々砂質、地山アロワック若干含む、細粒方眼)



第8図 D-1 土層図 (1/50)

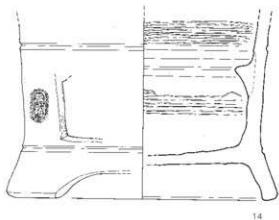
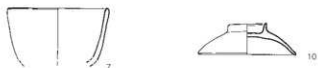
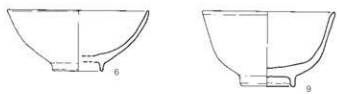
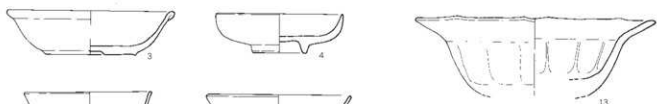
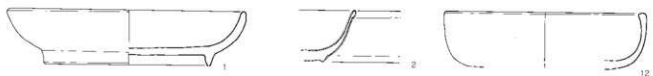


- 1 明茶褐色土 (礫含む、やや締まる)
- 2 明黄褐色粘質土 (墾地土、やや締まる)
- 3 明灰色土 (粘質、やや締まる)
- 4 明灰褐色土 (粘質、締まり良し)
- 5 明灰色粘質土 (締まり良し)
- 6 におい灰褐色土 (粘質、締まり良し)
- 7 明灰褐色土 (地山ブロック若干含む、締まり良し)
- 8 暗褐色土 (地山ブロック・炭若干含む、締まり良し)
- 9 明灰黄褐色土 (-地山、締まり良し)
- 10 におい灰褐色土 (粘質、地山ブロック含む、締まり良し)
- 11 黒褐色土 (締まり無し)
- 12 暗灰黄褐色土 (地山ブロック若干含む、締まり無し)
- 13 におい青灰色土 (-地山、締まり無し)
- 14 におい黄褐色土 (墾地土、締まり良し)
- 15 におい灰褐色土 (遺物包含層、締まり良し)
- 16 におい灰褐色土 (粘質、地山ブロック含む、締まり良し)
- 17 暗灰褐色土 (礫土若干含む、締まり良し)
- 18 におい明灰黄色土 (-地山、粘質)
- 19 明灰褐色土 (粘質、締まり良し)
- 20 やや暗灰褐色土 (粘質、炭若干含む、締まり良し)
- 21 明黄褐色粘質土 (粘質、やや締まり無し)
- 22 明灰褐色土 (地山ブロック若干含む、やや締まる)
- 23 明青灰色粘質土 (地山ブロック若干含む、やや締まる)
- 24 暗青灰色粘質土 (地山ブロック若干含む、締まり良し)
- 25 明灰色土 (炭若干含む、締まり良し)
- 26 明灰黄褐色土 (-地山、やや締まる)
- 27 におい灰褐色土 (地山ブロック若干含む、やや締まり無し)
- 28 明茶褐色土 (やや締まる)
- 29 明灰色粘質土 (30に同じ)
- 30 明灰色粘質土 (締まり良し)
- 31 灰褐色土 (地山ブロック若干含む、締まり良し)

第9図 D断面及び土層図 (1/50、配置図1/200)



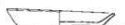
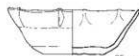
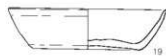
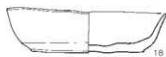
K-1



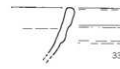
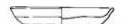
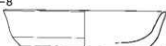
K-5



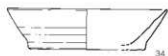
K-7



K-8



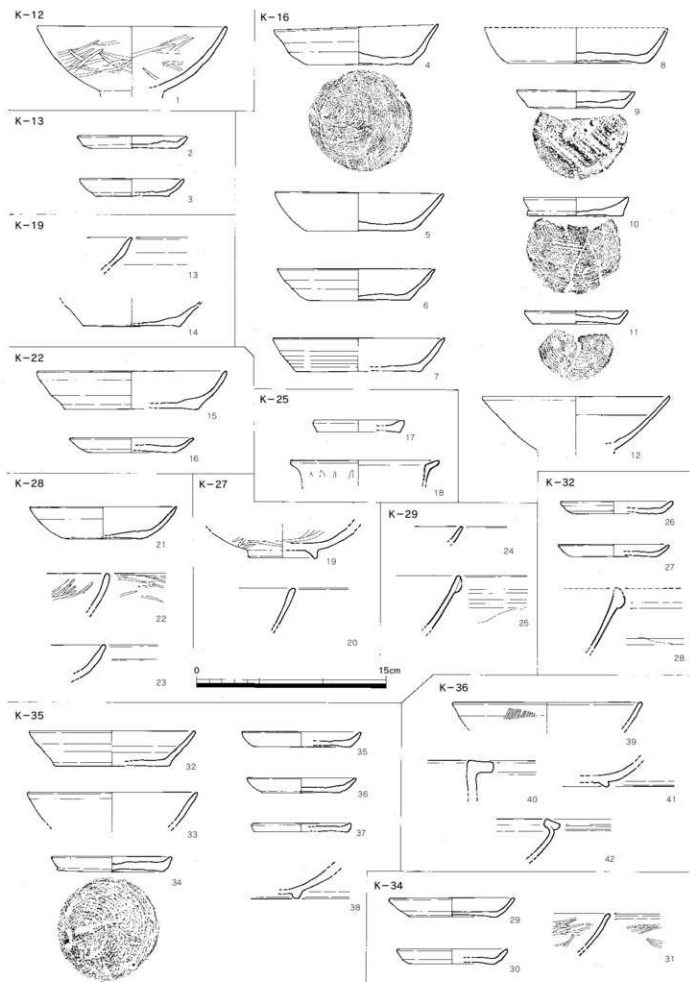
K-10



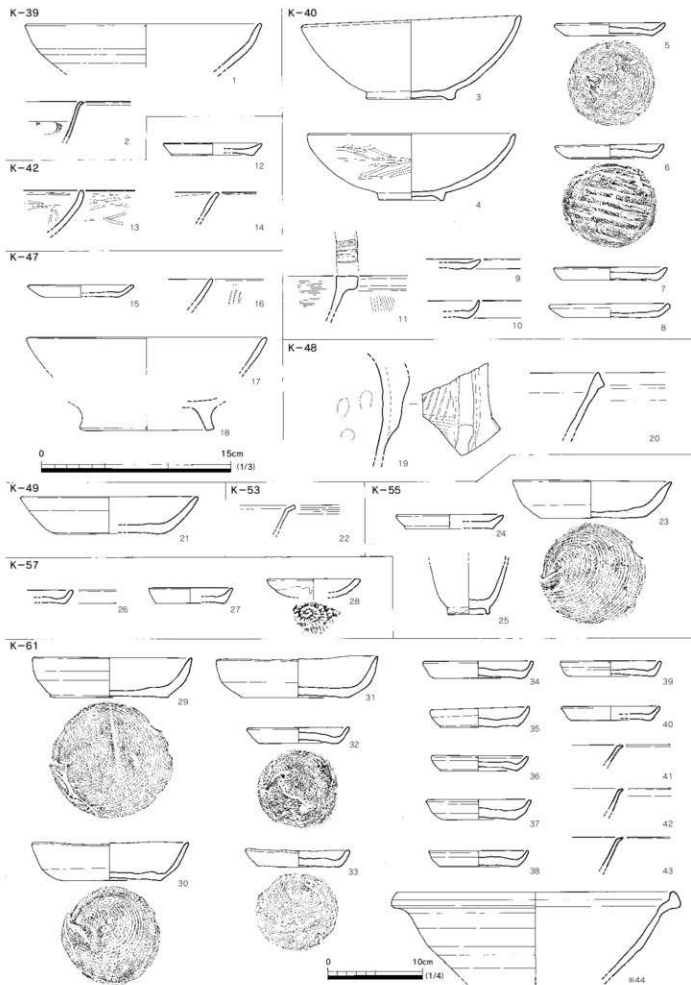
K-11



第10图 K出土土器・陶磁器实测图①(1/3)

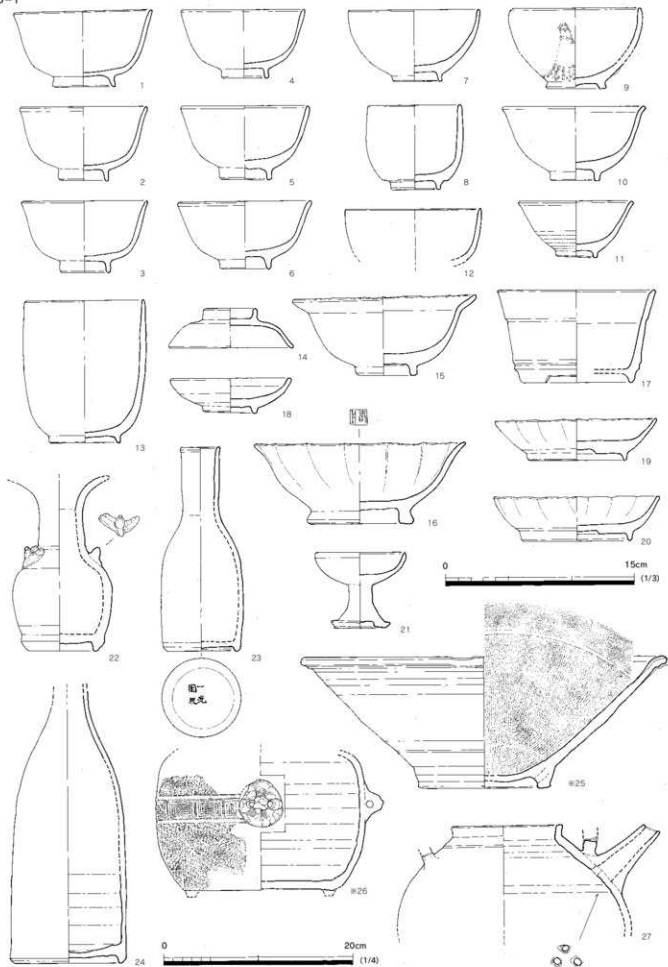


第11图 K出土土器·陶磁器实测图② (1/3)

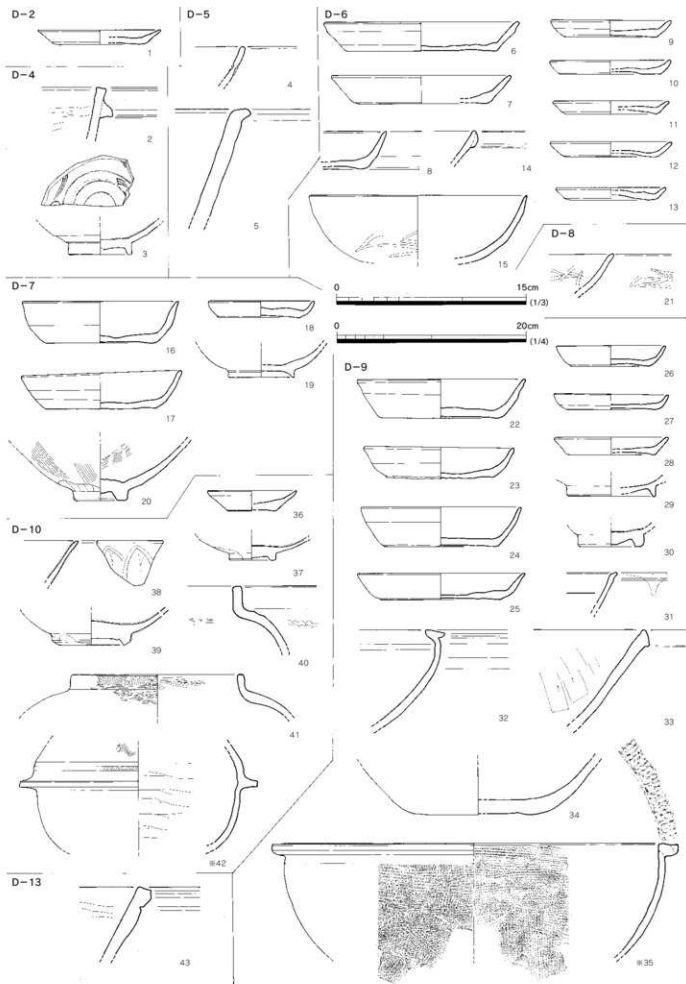


第12図 K出土土器・陶磁器実測図③ (1/3・※1/4)

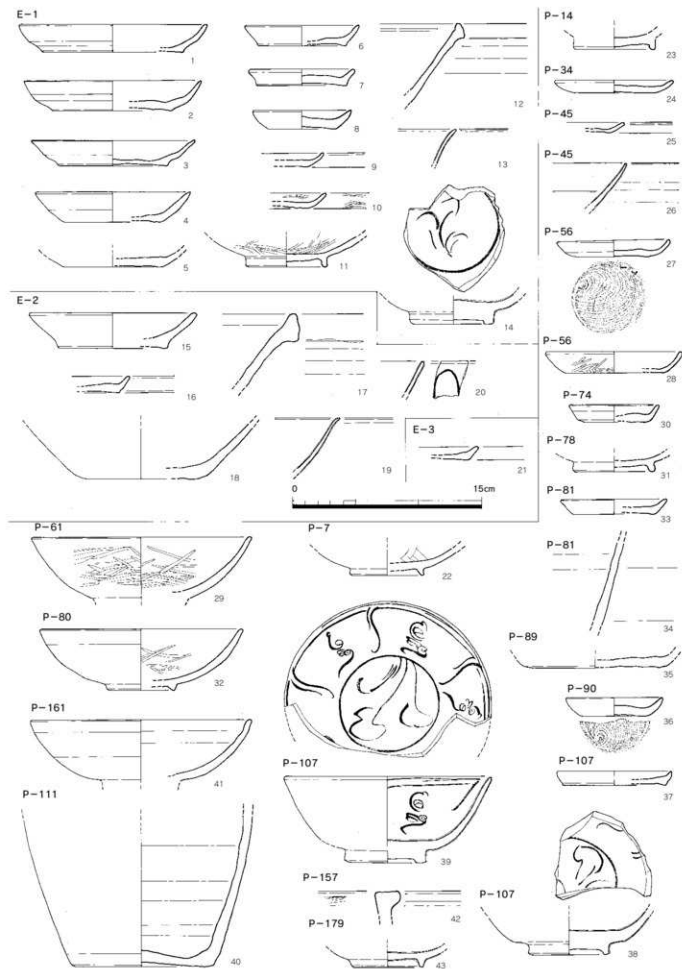
D-1



第13图 D出土土器・陶磁器实测图① (1/3・※1/4)



第14图 D出土土器・陶磁器实测图② (1/3・※1/4)



第15图 E·P出土土器・陶磁器实测图 (1/3)

調査 番号	出土 遺物	種類	法量 (cm)	色調	胎土	構成	成形・調整等	備考	台帳 番号
10-1	K-1	磁・角皿	□19.0 × 11.3 高台12.8 × 6.6	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:淡青色	精良	良好	内:施唐草文 外:唐草文 見込:松竹梅	染付	K-1(9)
10-2	K-1	磁・皿	楕4.1	胎土:灰白色 釉:透明緑灰色 具裏:淡青色	砂粒を少し含む	良好	見込:文様有り 高台:内:目輪割牙	染付	K-1(13)
10-3	K-1	磁・皿	□13.0 底7.0 器高3.5	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:くすんだ淡青色	砂粒をわずかに含む	良好	内:山水文 外:蕉文? 高台:内:目輪割牙	染付	K-1(12)
10-4	K-1	磁・皿	□19.9 楕3.1 高台4.2	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:淡青色	細砂粒を少し含む	良好	内外:海輪 内:海輪 見込:環の目輪割牙		K-1(10)
10-5	K-1	磁・碗	□19.9 楕4.4 高台3.6	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:黄褐色	精良	良好	口内:雲文 外:蕉文・草文 見込:松竹梅	染付	K-1(5)
10-6	K-1	磁・碗	□11.0 楕4.8 高台3.8	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:淡青色	細砂粒を含む	良好	外:印刷による山水文 見込:環の目輪割牙	染付	K-1(8)
10-7	K-1	磁・碗	□19.7	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:淡青色	精良	良好	外:山水文(前・松・東屋)	染付	K-1(8)
10-8	K-1	磁・碗	□11.2 楕4.5 高台4.0	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:淡いコバルトブルー	細砂粒を少し含む	良好	外:印刷による紅葉文 見込:環の目輪割牙	染付	K-1(4)
10-9	K-1	磁・碗	□10.3 楕5.9 高台4.0	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:淡青色	精良	良好	外:松文 見込? 見込:環の目輪割牙	染付	K-1(7)
10-10	K-1	磁・皿	□17.7 楕3.0	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:黄褐色	精良	良好	口内:雲文 外:紫雲錦草花文 見込:松竹梅	染付	K-1(2)
10-11	K-1	磁・皿	□15.9 楕2.25	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:緑色	精良	良好	口外:漢文 外:桜文	乳白→黄有り	K-1(3)
10-12	K-1	磁・鉢	□15.7	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:淡青色 色絵:赤・黄・藍	精良	良好	内:花鳥文 外:蕉葉文	色絵	K-1(11)
10-13	K-1	磁・皿	□18.9	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:コバルトブルー	精良	良好	内:牡丹文 外:草花文	染付	K-1(4)
10-14	K-1	瓦・瓦葺	圓径21.3	灰白色		1mm程の砂粒,金雲母粒を 多量に含む	内:ココナ 変態部:ココナ? 器内:ナダ 外:ココナ方向の丁字ナダ? 器部:ココナ?		K-1(1)
10-15	K-1	磁・仏飯碗	□16.0	胎土:乳白色 釉:透明 色絵:明赤色・青	0.1mm以下の砂粒やや多め	良好	外:菊文・松文	色絵	K-1(18)
10-16	K-1	磁・仏飯碗	□16.0 楕5.7 高台4.7	胎土:乳白色 釉:透明 赤絵:赤黄色	密	良好	外:菊文 器内:無輪	赤絵	K-1(15)
10-17	K-8	土・坪	□12.4 底8.8 器3.3	にぶい褐色	砂粒を少し含む	良	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?		K-5(1)
10-18	K-7	土・坪	□12.4 底8.4 器3.3	にぶい褐色	砂粒を含む	良	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	底:板状圧痕	K-7(2)
10-19	K-7	土・坪	□12.4 底8.4 器3.3	にぶい黄褐色	砂粒を少し含む	良	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	底:凹輪赤切?	K-7(3)
10-20	K-7	土・皿	□18.5 底6.7 器1.2	褐色	砂粒を含む	良	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	底:板状圧痕	K-7(5)
10-21	K-7	土・皿	□18.7 底6.9 器1.3	黄褐色	砂粒を少し含む	良好	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	底:板状圧痕	K-7(6)
10-22	K-7	土・皿	□18.4 底6.2 器1.25	浅黄褐色～黄褐色	砂粒を含む	良	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	底:板状圧痕	K-7(7)
10-23	K-7	土・皿	□18.7 底7.0 器1.2	にぶい黄褐色	砂粒を少し含む	良	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	底:板状圧痕	K-7(8)
10-24	K-7	土・皿	□18.6 底7.0 器1.2	にぶい黄褐色	砂粒を少し含む	良	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	底:板状圧痕	K-7(9)
10-25	K-7	皿・坪	□10.1 底4.75 器3.6	黄褐色	2mmの小石を数個含む	良好	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	口縁部を大に輪花をめぐ	K-7(1)
10-26	K-7	白・碗		胎土:灰黄色 釉:白色 やや粗い	精良	良好	口内:沈線		K-7(10)
10-27	K-7	青・碗		胎土:灰白色 釉:灰イロイロ色	精良	良好	口外:藤葉弁		K-7(11)
10-28	K-7	青・碗		胎土:灰白色 釉:緑灰色	砂粒をわずかに含む	良好	器内:沈線 外:藤葉弁		K-7(12)
10-29	K-8	土・坪	□12.8 底10.0 器2.9	黄褐色	砂粒を含む	良好	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 外:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切?	底:板状圧痕	K-8(2)
10-30	K-8	土・皿	□18.8 底6.7 器1.3	にぶい褐色	砂粒を含む	良好	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	底:わずかに板状圧痕	K-8(3)
10-31	K-8	土・皿	□18.0 底5.9 器2.0	浅黄褐色	砂粒を含む	良	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	底:板状圧痕	K-8(4)
10-32	K-8	磁・碗	高台3.8	胎土:白色 釉:透明 色絵:赤・藍	精良	良好	文様:不明	色絵	K-8(5)
10-33	K-8	土・筋		にぶい褐色	砂粒を含む	良好	口内:凹輪ナダ? 口外:凹輪ナダ?	口外:ス付痕	K-8(1)
10-34	K-10	土・坪	□12.6 底9.2 器2.2	褐色	砂粒を少し含む	良好	口:凹輪ナダ? 器内:赤切?	K-10(1)	
10-35	K-10	土・坪	□14.2	にぶい黄褐色	細砂粒を含む	良好	口:凹輪ナダ?	K-10(2)	
10-36	K-11	陶・皿	高台	胎土:灰白色 釉:淡黄色	細砂粒を少し含む	良好	内:海輪 外:海輪		K-11(1)
11-1	K-12	瓦・葺	□14.8	灰色～灰白色	砂粒を少し含む	良好	口:凹輪ナダ? 内:ナダ?・ヒナ? 外:ヒナ?・ココナ?	口内:一部ヒナ状の 調整痕	K-12(1)
11-2	K-13	土・皿	□18.6 底6.8 器1.0	浅黄褐色～にぶい褐色	砂粒をわずかに含む	良	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	底:板状圧痕	K-13(1)
11-3	K-13	瓦・葺	□18.2 底7.8 器1.4	灰色	砂粒をわずかに含む	良好	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	底:板状圧痕	K-13(2)
11-4	K-16	土・坪	□13.0 底8.2 器3.0	褐色	砂粒をわずかに含む	良	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	底:板状圧痕	K-16(1)
11-5	K-16	土・坪	□13.3 底8.4 器3.0	にぶい褐色	砂粒を含む	良好	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	底:板状圧痕	K-16(2)
11-6	K-16	土・坪	□12.4 底8.0 器2.5	にぶい褐色	砂粒を含む	良	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	底:板状圧痕	K-16(3)
11-7	K-16	土・坪	□13.5 底9.7 器2.65	褐色	砂粒を含む	良	口:凹輪ナダ? 器内:ナダ? 底:凹輪赤切? 器内:ナダ?	底:板状圧痕	K-16(4)

出土遺物観察表①

調査 番号	出土 遺物	種類	法量 (cm)	色調	胎土	構成	成形・調整等	備考	台帳 番号
11-8	K-16	土・灰	□14.3 底10.7	灰黄褐色	細砂粒を含む	やや 不具	内外:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り	底:板状圧痕	K-16(3)
11-9	K-16	土・灰	□19.3 底7.6 器1.4	明黄褐色	砂粒を少し含む	良好	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り	底:板状圧痕	K-16(6)
11-10	K-16	土・灰	□10.2 底3.4 器1.5	褐色	細砂粒を含む	良好	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り	底:板状圧痕	K-16(7)
11-11	K-16	土・灰	□18.0 底6.6 器1.1	褐色	砂粒を少し含む	良好	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り		K-16(8)
11-12	K-16	曹・灰	□14.7	胎土:灰白色 釉:明オレンジ・灰色	精良	良好	内:浅溝 見込:腕の目輪跡		K-16(9)
11-13	K-19	土・灰		浅黄褐色	砂粒を含む	良好	□:回転ナデ		K-19(1)
11-14	K-19	土・灰	底7.8	にぶい褐色	細砂粒をわずかに含む	良	□:回転ナデ 内底:ナデ 外:回転ナデ 底:回転糸切り		K-19(2)
11-15	K-22	土・灰	□14.8 底10.6 器3.0	浅黄褐色	砂粒を含む	良好	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り		K-22(1)
11-16	K-22	土・灰	□9.6 底6.8 器1.15	褐色～浅黄褐色	砂粒を含む	良好	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り		K-22(2)
11-17	K-25	土・灰	□7.1 底6.6 器1.0	褐色	砂粒を含む	良好	□:回転ナデ 底内:回転ナデ 底:回転糸切り		K-25(1)
11-18	K-25	曹・灰	□12.6	胎土:灰白色 釉:緑灰色	精良	良好	外:片割(内)より文様有り		K-25(2)
11-19	K-27	瓦・瓦	高台5.4	灰白色～灰色	砂粒を含む	やや 不具	内:ナデ 外:ズギキ 高台:ココナデ		K-27(2)
11-20	K-27	瓦・瓦		灰色	砂粒を少し含む	良	□:ココナデ		K-27(1)
11-21	K-28	土・灰	□11.6 底6.0 器2.5	褐色	砂粒を少し含む	良好	□:回転ナデ 内:ナデ?		K-28(3)
11-22	K-28	瓦・瓦		灰白色～灰色	細砂粒をわずかに含む	良好	□:回転ナデ 内:ズギキ	□:一部ズギキ	K-28(1)
11-23	K-28	土・灰		浅黄褐色	砂粒をわずかに含む	良好	□:回転ナデ	外:浅溝?	K-28(2)
11-24	K-29	曹・灰		胎土:灰白色 釉:オレンジ・灰色	精良	良好			K-29(2)
11-25	K-29	白・灰		胎土:灰白色 釉:灰白色	精良	良好	□:浅溝 外:下半:腹動		K-29(1)
11-26	K-32	土・灰	□9.4 底7.6 器1.0	浅黄褐色	砂粒を含む	良好	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り	底:板状圧痕	K-32(1)
11-27	K-32	土・灰	□18.8 底6.6 器0.9	褐色	細砂粒を含む	良好	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:糸切り		K-32(2)
11-28	K-32	白・灰		胎土:灰白色 釉:灰白色	精良	良好	外:下半:腹動		K-32(3)
11-29	K-34	曹・灰	□19.9 底7.0 器1.5	灰色	細砂粒を含む	良好	□:回転ナデ 底内:ナデ? 底:回転糸切り	底:板状圧痕	K-34(2)
11-30	K-34	土・灰	□18.9 底6.8 器1.2	にぶい褐色	砂粒を含む	良	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り		K-34(3)
11-31	K-34	瓦・瓦		灰白色～灰色	細砂粒をわずかに含む	良好	□:ココナデ 内:ズギキ 外:ズギキ		K-34(1)
11-32	K-35	土・灰	□13.1 底9.0 器2.8	褐色	砂粒を少し含む	良	□:回転ナデ 底内:回転ナデ 底:糸切の後ナデ		K-35(2)
11-33	K-35	土・灰	□13.4 器2.4	にぶい褐色	細砂粒をわずかに含む	良好	□:回転ナデ?		K-35(3)
11-34	K-35	土・灰	□19.5 底8.3 器1.2	褐色	砂粒を含む	良好	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り		K-35(4)
11-35	K-35	土・灰	□19.4 底7.6 器1.2	褐色	砂粒を含む	良	□:回転ナデ 底内:ナデ		K-35(5)
11-36	K-35	土・灰	□18.6 底6.1 器1.2	褐色	砂粒を含む	良	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り	底:板状圧痕	K-35(6)
11-37	K-35	土・灰	□17.8 底7.4 器0.7	内:褐色 外:褐色	砂粒を少し含む	良	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り	底:板状圧痕	K-35(7)
11-38	K-35	瓦・瓦		灰白色	砂粒を少し含む	良	内:ナデ 外:ナデ 底:ココナデ	外:一部ズギキ	K-35(1)
11-39	K-36	曹・灰	□15	胎土:灰白色 釉:オレンジ・黄色	砂粒をわずかに含む	良好	外:帯目文		K-36(4)
11-40	K-36	土・灰		内:灰黄褐色 外:にぶい黄褐色	1～5mmの小石を含む	良	□:ココナデ 内:ナデ		K-36(1)
11-41	K-36	瓦・瓦		灰白色	砂粒を含む	良	□:ズギキ状のナデ? 底:ココナデ		K-36(2)
11-42	K-36	陶・灰		明褐色	黒色砂粒を少し含む	良好	□:腹動		K-36(3)
12-1	K-39	瓦・瓦	□18.2	浅黄褐色～灰色	砂粒を少し含む	やや 不具	□:回転ナデ 内:ナデ 外:回転ヘラ跡		K-39(1)
12-2	K-39	白・灰		胎土:灰白色 釉:灰白色	精良	良好	□内:帯目文		K-39(2)
12-3	K-40	瓦・瓦	□17.4 高台7.1 器6.3	胎土:灰白色～灰色	1～3mmの小石をわずかに含む	やや 不具	□:ココナデ 内:ナデ? 外:ナデ? 底:ナデ? 高台:ココナデ		K-40(1)
12-4	K-40	瓦・瓦	□16.4 高台5.2 器5.2	灰色	砂粒を含む	良好	□:回転ナデ? 内:ナデ(一部ズギキ?) 外:ズギキ 底:ナデ 高台:ココナデ		K-40(2)
12-5	K-40	土・灰	□18.6 底6.8 器1.0	浅黄褐色	精良	良好	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り		K-40(4)
12-6	K-40	土・灰	□18.5 底6.7 器1.1	にぶい褐色	砂粒をわずかに含む	良好	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り	底:板状圧痕	K-40(5)
12-7	K-40	土・灰	□18.6 底7.6 器1.0	褐色	砂粒を少し含む	良好	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:糸切り後ナデ		K-40(7)
12-8	K-40	土・灰	□19.3 底7.4 器1.1	にぶい黄褐色	砂粒を少し含む	良	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り	底:板状圧痕	K-40(6)
12-9	K-40	土・灰	□18.0	褐色	砂粒を含む	良好	□:回転ナデ 底内:ナデ		K-40(8)
12-10	K-40	土・灰	器1.4	褐色	砂粒を含む	良好	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り		K-40(9)
12-11	K-40	土・灰		内:褐色 外:灰褐色	砂粒を含む 1～3mmの小石をわずかに含む	良好	□:ハク目? □内:ココナテ □外:ココナテ 外:ズギキ		K-40(3)
12-12	K-42	土・灰	□17.8 底6.5 器0.9	淡黄褐色	砂粒を含む	良	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り		K-42(3)
12-13	K-42	瓦・瓦		内:灰色 外:灰白色～灰色 □:灰白色	砂粒をわずかに含む	良好	□:回転ナデ(一部ズギキ) □内:ナデ □外:ズギキ		K-42(1)
12-14	K-42	陶・灰		胎土:にぶい褐色 釉:灰白色	砂粒をわずかに含む	良好	□:輪ケズリ取り □内:浅溝 □外:輪動		K-42(4)
12-15	K-47	土・灰	□18.4 底5.7 器1.0	にぶい黄褐色	細砂粒をわずかに含む	良好	□:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転糸切り		K-47(5)
12-16	K-47	瓦・瓦		黄褐色	細砂粒をわずかに含む	良好	□:回転ナデ 内:ナデ 外:ズギキ		K-47(4)

出土遺物観察表②



調査 番号	出土 遺物	種類	法量 (cm)	色調	胎土	構成	成形・調整等	備考	台帳 番号
12-17	K-47	瓦・瓶	□119.0	内:灰白色 外:灰色 口:灰色	砂粒を含む	良好	口:回転ナデ 内:ナデ		K-47(1)
12-18	K-47	土・瓦	高台10.6	褐色	砂粒を含む	良好	高台:ロコナデ		K-47(2)
12-19	K-48	須・壺		灰色	砂粒を少し含む	良好	内:ナデ 外:タタキ・タタキ	内:一部回転成型	K-48(2)
12-20	K-48	須・鉢		灰色	砂粒を含む	良好	口:回転ナデ 内:ナデ		K-48(1)
12-21	K-49	土・坪	□14.0 底8.8 高2.9	にぶい褐色	砂粒を含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転成型		K-49(2)
12-22	K-53	甕・瓶		胎土:灰白色 釉:オリーブ黄色	灰白色	良好			K-53(2)
12-23	K-55	土・坪	□112.5 底8.1 高2.9	にぶい褐色	砂粒を少し含む	良	口:回転ナデ 底内:回転ナデ 底:回転成型	一部スリ層	K-55(1)
12-24	K-55	土・坪	□184 底6.9 高1.1	灰白色	1~2mmの小石を数個含む	良	口:回転ナデ 底内:回転ナデ 底:回転成型		K-55(2)
12-25	K-55	須・瓶口	高台3.3		黒色砂粒を少し含む	良好	外:梅花文	染付	K-55(4)
12-26	K-57	土・瓶	高1.1	褐色	砂粒を含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転成型		K-57(1)
12-27	K-57	土・坪	□16.6 底5.4 高1.2	にぶい黄褐色	砂粒を含む	良好	口:回転ナデ 底:回転成型		K-57(2)
12-28	K-57	須・紅土	□174	胎土:灰白色 釉:白色	増良	良好	底外:開脚 型押成形(縁部のタコ唐草文)		K-57(4)
12-29	K-61	土・坪	□164 底9.3 高3.1	浅黄褐色～褐色	砂粒を含む	良	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転成型		K-61(3)
12-30	K-61	土・坪	□12.4 底7.6 高3.0	にぶい黄褐色～浅黄褐色	砂粒を少し含む	良	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転成型		K-61(4)
12-31	K-61	土・坪	□12.7 底8.4 高3.3	浅黄褐色	砂粒を含む	良好	口:回転ナデ 底内:回転ナデ 底:回転成型		K-61(2)
12-32	K-61	土・坪	□17.9 底6.2 高1.2	浅黄褐色	砂粒を少し含む	良好	口:回転ナデ 底内:回転ナデ 底:回転成型		K-61(5)
12-33	K-61	土・坪	□18.2 底6.3 高1.4	褐色	砂粒を少し含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転成型		K-61(6)
12-34	K-61	土・坪	□17.8 底6.2 高1.1	内:にぶい褐色 外:明褐色	砂粒を少し含む	良	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:赤切り後ナデ		K-61(12)
12-35	K-61	土・坪	□17.8 底6.2 高1.1	浅黄褐色～にぶい黄褐色	砂粒をわずかに含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転成型		K-61(7)
12-36	K-61	土・坪	□17.6 底6.0 高1.2	褐色～にぶい褐色	砂粒を少し含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転成型		K-61(8)
12-37	K-61	土・坪	□18.2 底6.0 高1.2	にぶい褐色 一部明褐色	砂粒をわずかに含む	良	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転成型		K-61(9)
12-38	K-61	土・坪	□17.8 底6.1 高1.2	褐色～明褐色	砂粒を含む	良	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転成型		K-61(10)
12-39	K-61	土・坪	□17.9 底6.8 高1.2	内:褐色 外:明褐色	砂粒を含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転成型		K-61(11)
12-40	K-61	土・坪	□17.8 底6.2 高1.1	にぶい黄褐色	砂粒を少し含む	良	口:回転ナデ 底内:回転ナデ 底:赤切り		K-61(13)
12-41	K-61	甕・瓶		胎土:灰白色 釉:浅黄色	増良	良好			K-61(14)
12-42	K-61	白・瓶		胎土:灰白色 釉:灰白色	増良	良好			K-61(16)
12-43	K-61	白・瓶		胎土:灰白色 釉:白色	増良	良好			K-61(15)
12-44	K-61	須・鉢	□29.2	灰色	砂粒を含む、2~5mmの 小石を少し含む	良好	口:回転ナデ 内:ナデ 外:回転ナデ		K-61(1)
13-1	D-1	須・瓶	□118.0 底6.0 高台4.9	胎土:灰かかった白色 釉:透明 具裏:黄～黄色	密 少量黒砂粒を含む	良	口内:唐文(草書) 外:唐字文 見込:唐字文・篆文	染付 外:一部唐草文	D-1(25)
13-2	D-1	須・瓶	□110.0 底5.8 高台3.8	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:浅褐色	6~9mm 0.1mm以下の 灰色砂粒少し含む	良好	内:外:梅文 底外:楓土 高台外:文様(草書)	染付	D-1(8)
13-3	D-1	須・瓶	□18.9 底5.6 高台4.0	胎土:白色 釉:透明 具裏:黄褐色・黄褐色		良好	口内:唐文 外:梅花文 見込:松竹梅	染付	D-1(34)
13-4	D-1	須・瓶	□19.7 底5.4 高台3.7	胎土:灰白 釉:透明 具裏:黄～黄色	0.1mm以下の砂粒若干 多く含む	普通	口内:唐文 外:唐草文・草紙文 見込:唐文の類々	染付	D-1(32)
13-5	D-1	須・瓶	□110.1 底6.8 高台4.1	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:黄褐色・黄褐色		良好	口内:スサテ 外:草花文? 見込:?	染付 肥前系1820~ 1860年代	D-1(7)
13-6	D-1	須・瓶	□110.5 底5.3 高台4.0	胎土:灰黄色 釉:黄白色・ 褐色(内側)、白色にやや 緑色(外側) 具裏:黄褐色	1mm以下の砂粒を若干含む	普通	外:スサキ丸文 見込:「」文	染付	D-1(26)
13-7	D-1	須・瓶	□110.3 底5.6 高台3.9	胎土:灰色緑白色 釉:透明(灰白色) 具裏:コバルトブルー		普通	口内:印明による輪宝文 外:印明による唐字文 見込:松竹梅(手組)	染付	D-1(10)
13-8	D-1	須・瓶口	□17.5 底6.7 高台2.8	胎土:灰白色 釉:透明 赤砂:赤褐色	0.1mm程度の黒色粒を若干 含む	良好	外:宝文・唐字	赤絵	D-1(42)
13-9	D-1 赤土	陶・瓶	□110.6 底6.4 高台4.7	胎土:黄褐色 釉:黒褐色・白色	密	良好	黒褐色釉をかけ、腹部部分には白色釉を点々とする	福岡(19c)	D-1(5)
13-10	D-1	陶・瓶	□111.2 底5.8 高台3.9	胎土:灰色 釉:黒褐色 (外面部分に:黄褐色)	やや粗め 0.1mm以下の 砂粒を含む	普通	見込:日蓮?所(胎土目)		D-1(27)
13-11	D-1 赤土	陶・瓶	□19.0 底4.5 高台3.3	胎土:灰黄色 釉:浅黄色・暗緑色	密	良好	内:縁輪4箇所かけ直し		D-1(30)
13-12	D-1 赤土	須・瓶	□10.7	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:黄褐色	0.1mm程度の黒色粒を 若干含む	良好	外:タコ唐草文 口端:縁輪	染付	D-1(38)
13-13	D-1	須・小皿	□194 高11.2 天径9.8	胎土:白色 釉:透明 具裏:黄褐色	密	良好	口内:四方唐文 外:タコ唐草文	染付	D-1(39)
13-14	D-1	須・碗蓋	□198 高11.1 天径9.3	胎土:白色 釉:透明 具裏:黄褐色・暗褐色	密	良好	口内:四方唐文 外:唐草文 見込:松竹梅	染付 肥前系1820~ 1860年代	D-1(4)
13-15	D-1	須・鉢	□14.5 底6.3 高台4.8	胎土:灰白色 釉:透明(やや青みがかる) 具裏:黄褐色	密	良好	内:宝文文 口内:縁輪の文様 外:縁輪起文	染付 口縁部縁輪4輪 縁部一帯にタコ唐文 見込:胎土目	D-1(13)

出土遺物観察表③

調査番号	出土遺物	種類	法量 (cm)	色調	胎土	構成	成形・調整等	備考	台帳番号
13-16	D-1	磁・鉢	口16.6 器6.3 高台8.3	胎土:白色 釉:瑠璃色+金彩	0.1mm程の砂粒を含む	良好	内:金彩による太陽+海 見込:文字有り	型打ち成形 割れ口にツルミ接合部	D-1(12)
13-17	D-1 高台	磁・鉢形小鉢	口12.4 器7.3 高台9.0	胎土:灰白色 釉:透明・口周(高部と同様) 具裏:灰青緑色	0.1mm程の黒色の粒を含む	良好	内外:粘土紅瓦製成 見込:文様有り 高台外:紅瓦文	染付 切台高	D-1(11)
13-18	D-1	磁・手取皿	口9.5 器2.7 高台4.2	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:灰緑色	密	普通	口内:格子文 見込:蛇の目輪ハギ	染付 裏面系 (1820～1860)	D-1(11)
13-19	D-1	磁・皿	口12.8 器3.8 高台7.8	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:灰青緑色	密	良好	内:山水文 高台内:蛇の目輪ハギ	染付 型打ち成形 内:胎土目5つ	D-1(82)
13-20	D-1	磁・皿	口13.0 器3.5 高台8.7	灰白色にコバトブルー 釉:透明	密	良好	内:和蘭文	染付 型打ち成形 内:胎土目5つ	D-1(63)
13-21	D-1	磁・仏前皿	口7.2 器6.0 高台4.6	胎土:灰白色 釉:透明 色絵:赤褐色+緑色+黒色	0.1mm以下の砂粒を含む	良好	内:舟+若松?	染付 裏面 (18世紀～幕末)	D-1(24)
13-22	D-1	青・広花器	高台6.5	胎土:灰白色 釉:オリーブ灰	密	良好	内:無釉 外:鳥形の耳を貼り付け	高台:砂付着?	D-1(73)
13-23	D-1	磁・碗	口1.1 器16.0 高台5.1	胎土:灰白色 釉:透明 具裏:濃い青褐色	密	普通	内面下部:無釉 底:製造完成(一洗刷製)	染付 瀬戸+美濃 (明治～大正)	D-1(18)
13-24	D-1	磁・碗	高台9.2	胎土:灰白色 釉:透明(やや青みがかる) 具裏:灰青緑色	密	良好	外:草花文(菊菊?)	染付 内:無釉	D-1(20)
13-25	D-1	陶・楕円鉢	口8.6 器13.9 高台14.0	暗褐色	良 1mm程の砂粒を含む	良好	口:クロコナデ 内:すり目(全面) 外:クロコナデ	内外:無釉を揃す 内:裏面赤み+砂付着 高台外:タタヒに砂付着	D-1(5)
13-26	D-1	灰・火鉢	脚22	灰褐色	1～2mm程の砂粒をやや含む	良好	内:強い壁方向のナデ? 外:強い格子状タタキ状・雲文等を彫削し 底内:壁方向ナデ? 底:ナデ	底:黒書有り?	D-1(8)
13-27	D-1	陶・土瓶	口8.7	胎土:灰赤色 釉:瑠璃色	1mm程の砂粒を僅かに含む	良好	内:クロコナデ	注水部取付け箇所:3穴	D-1(77)
14-1	D-2	土・鉢	口9.7 器1.2 器7.2	にぶい黄褐色	砂粒を含む	良	口:回転ナデ 底内:ナデ	D-2(1)	
14-2	D-4	土・鉢	にぶい褐色	1～2mmの小石を含む	良好	口:ヨコナデ 内:工具ナデ? 外:ナデ?	D-4(1)		
14-3	D-4	青・碗	高台5.0	胎土:灰白色 釉:オリーブ黄色	細砂粒をわずかに含む	良好	内:磨目文+文様 外:磨目文 底:裏面	磨り出し高台	D-4(2)
14-4	D-5	灰・瓦	灰白色	砂粒を少し含む	不良	内:ヨコナデ	D-5(1)		
14-5	D-5	土・鉢	にぶい褐色	1～4mmの小石を含む	良好	口:ヨコナデ 内:ナデ? 外:ナデ?	外:スス付着	D-5(3)	
14-6	D-6	土・鉢	口15.4 器2.3 器11.8	褐色～褐色	砂粒を少し含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	底:板状瓦産	D-6(4)
14-7	D-6	土・鉢	口14.2 器2.3 器10.4	褐色	砂粒を少し含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	D-6(5)	
14-8	D-6	土・鉢	器3.0	褐色	1～3mmの砂粒を含む	良	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	D-6(6)	
14-9	D-6	土・鉢	口9.5 器1.3 器7.4	にぶい褐色	砂粒を少し含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	底:板状瓦産	D-6(7)
14-10	D-6	土・鉢	口9.6 器8.0 器11.1	にぶい黄褐色	砂粒を含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	D-6(8)	
14-11	D-6	土・鉢	口9.2 器7.2 器11.1	にぶい褐色	砂粒をわずかに含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	D-6(9)	
14-12	D-6	土・鉢	口9.6 器7.5 器11.2	にぶい黄褐色	砂粒を少し含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	D-6(10)	
14-13	D-6	土・鉢	口8.7 器6.2 器1.0	にぶい褐色～褐色	砂粒をわずかに含む	良	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:赤切り	D-6(11)	
14-14	D-6	白・碗	胎土:灰白色 釉:黄灰色 やや粗い	良好	口:回転ナデ 内:ナデ 外:1/2ギタ,ヨコナデ	D-6(1)			
14-15	D-6	灰・瓦	口17.2	灰白色～灰色	1～3mmの小石をわずかに含む	良好	口:回転ナデ 内:ナデ 外:1/2ギタ,ヨコナデ	D-6(1)	
14-16	D-7	土・鉢	口12.3 器9.0 器3.3	にぶい褐色	細砂粒を少し含む	良	口:回転ナデ 底:回転赤切り	内:スス付着	D-7(4)
14-17	D-7	土・鉢	口12.7 器8.7 器2.9	浅黄褐色～褐色	砂粒を少し含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	底:板状瓦産	D-7(3)
14-18	D-7	土・鉢	口8.4 器6.4 器1.3	褐色	砂粒を少し含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	D-7(5)	
14-19	D-7	土・鉢	高台5.2	褐色～にぶい褐色	砂粒を含む	良好	内:回転ナデ 底内:ナデ 外:回転ナデ 底:ナデ 高台外:ヨコナデ	D-7(1)	
14-20	D-7	青・碗	高台4.3	胎土:灰色 釉:オリーブ灰色 粗点	良好	内外:磨目文 底:裏面工具による 高台外:ツルミ(一部切取状をなす?)	D-7(2)		
14-21	D-8	灰・瓦	灰白色～灰色	細砂粒をわずかに含む	良好	口:回転ナデ+一部タタキ 内:1/2ギタ	D-8(2)		
14-22	D-9	土・鉢	口13.3 器9.7 器3.1	褐色	砂粒を少し含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	D-9(6)	
14-23	D-9	土・鉢	口11.9 器8.5 器2.5	褐色	砂粒を含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	底:板状瓦産	D-9(9)
14-24	D-9	土・鉢	口12.6 器9.0 器3.1	褐色	砂粒を少し含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	D-9(10)	
14-25	D-9	土・鉢	口13.2 器9.3 器2.1	内:浅黄褐色 外:褐色	細砂粒を含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	D-9(11)	
14-26	D-9	土・鉢	口8.6 器6.3 器1.6	浅黄褐色～黄褐色	細砂粒を含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	D-9(17)	
14-27	D-9	土・鉢	口9.0 器7.1 器1.2	褐色	砂粒を少し含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	D-9(18)	
14-28	D-9	土・鉢	口9.0 器6.9 器1.4	褐色	砂粒を含む	良好	口:回転ナデ 底内:ナデ 底:回転赤切り	底:板状瓦産	D-9(19)
14-29	D-9	土・鉢	高台7.8	灰色	細砂粒を少し含む	良好	底内:ナデ 底:ナデ? 高台:ヨコナデ	D-9(6)	
14-30	D-9	青・碗	高台4.8	胎土:灰白色 釉:オリーブ灰色 やや粗い	良好	底:裏面	磨り出し高台	D-9(5)	
14-31	D-9	青・碗	胎土:灰白色 釉:オリーブ黄色 粗点	良好	底:裏面	内:文様	D-9(4)		
14-32	D-9	陶・鉢	胎土:にぶい褐色 釉:オリーブ黄色	細砂粒を含む	良好		D-9(3)		
14-33	D-9	黄・鉢	灰色	砂粒を含む	良好	口:回転ナデ 内:工具ナデ 外:回転ナデ	D-9(2)		
14-34	D-9	黄・鉢	器10.4	灰色	砂粒を含む	良	外:回転ナデ	D-9(1)	
14-35	D-9	土・鉢	口43.0	灰黄褐色	1mm程の砂・鉄屑小粒を含む	普通	口外:ヨコナデ 内:ハナ目 外:ハナ目 外:スス付着	D-9(9)	

出土遺物観察表④

調査 番号	出土 遺物	種類	法量 (cm)	色調	胎土	構成	成形・調整等	備考	台帳 番号
14-36	D-10	土・皿	口7.0 底3.7 器1.6	浅黄褐色～灰白色	砂粒を含む	良好	口：回転ナデ 底内：ナデ? 底：回転糸切り		D-10(7)
14-37	D-10	白・碗	高台3.7	胎土：灰白色 釉：白色	焼良	良好	底：裏胎	胎出し高台	D-10(9)
14-38	D-10	青・碗		胎土：灰白色 釉：オリーブ灰色	焼良	良好	口外：裏胎	口：黄褐色に変色	D-10(8)
14-39	D-10	青・碗	高台6.3	胎土：黄灰色～浅黄色 釉：明オリーブ灰色	黒色砂粒を含む	良好	底：裏胎	胎出し高台	D-10(8)
14-40	D-10	土・壺		にじみ・黄褐色	砂粒を含む 1～3mmの 小石を数個含む	良	口：ココナデ 胴内：ココナヘナデ 胴外：ナデ 胴外：波状文?		D-10(4)
14-41	D-10	瓦・壺	口13.6	灰色	砂粒を含む	良好	口：ココナデ 口内：ココナヘ 口外：タナハ 胴内：ナデ 胴外：じぎ		D-10(2)
14-42	D-10	土・壺		にじみ・褐色	砂粒を含む	良好	胴内：工具ナデ 胴外下半：回転ナデ 胴外上半：タナハ 変形：ココナデ	外：スス付	D-10(11)
14-43	D-13	土・網		内：にじみ・褐色 外：浅黄褐色	1～2mmの小石を含む	良好	口：ココナデ 内：工具ナデ?	外：スス付	D-13(1)
15-1	E-1	土・杯	口14.8 底11.1 器2.2	にじみ・黄褐色	砂粒を少し含む	良好	口：回転ナデ 底内：ナデ 底：回転糸切り		E-1(6)
15-2	E-1	土・杯	口14.0 底9.4 器2.4	にじみ・褐色	砂粒を含む	良好	口：回転ナデ 底内：ナデ 底：回転糸切り	底：板状底	E-1(7)
15-3	E-1	土・杯	口12.9 底8.6 器2.0	褐色	砂粒を含む	良	口：回転ナデ 底内：ナデ 底：回転糸切り	底：板状底	E-1(9)
15-4	E-1	土・杯	口12.2 底7.5 器2.4	褐色	砂粒を含む	良好	口：回転ナデ 底内：ナデ 底：回転糸切り	E-1(8)	
15-5	E-1	土・杯	底7.9	灰白色	砂粒を少し含む	良	内外：回転ナデ 底内：ナデ 底：回転糸切り	底：板状底	E-1(7)
15-6	E-1	土・皿	口9.0 底7.0 器1.6	褐色	砂粒を含む	良	口：回転ナデ 底内：ナデ 底：回転糸切り	E-1(4)	
15-7	E-1	土・皿	口8.4 底7.1 器1.3	にじみ・褐色	砂粒を少し含む	良好	口：回転ナデ 底内：ナデ 底：回転糸切り	E-1(1)	
15-8	E-1	土・皿	口7.7 底5.4 器1.5	灰白色	砂粒を含む	良好	口：回転ナデ 底内：ナデ 底：回転糸切り	E-1(2)	
15-9	E-1	土・皿	器1.1	にじみ・黄褐色	砂粒を含む	やや劣	口：回転ナデ 底内：ナデ 底：回転糸切り	内：スス付	E-1(3)
15-10	E-1	瓦・皿	器1.2	にじみ・褐色	焼良	良好	口：回転ナデ 一部にじぎ 底内：ナデ 外：じぎ	E-1(5)	
15-11	E-1	瓦・碗	高台6.4	内：埋戻色 外：灰白色～黄灰色	細砂粒を少し含む	良好	内：じぎ 外：じぎ 高台：ココナデ		E-1(6)
15-12	E-1	漆・鉢		胎土～褐色 口：埋戻色	砂粒を多く含む	良	口：回転ナデ 内：使用痕(スス)	E-1(3)	
15-13	E-1	青・碗		胎土：灰白色 釉：明緑灰色	焼良	良好	口端：口欠け	E-1(3)	
15-14	E-1	青・碗	高台6.4	胎土：灰白色 釉：オリーブ灰色	焼良	良好	底内：片割れによる文様・浅緑 底：裏胎	胎出し高台	E-1(6)
15-15	E-2	土・杯	口13.2 底8.6 器2.8	にじみ・褐色	砂粒をわずかに含む	良好	内：ナデ 口：回転ナデ 底：回転糸切り?	底：板状底	E-2(6)
15-16	E-2	土・皿	器1.3	灰黄色	砂粒を少し含む	良好	口：回転ナデ 底内：ナデ 底：回転糸切り	E-2(9)	
15-17	E-2	陶・鉢		内：にじみ・赤褐色 外：灰褐色～赤褐色	砂粒を含む	良好	内外：回転ナデ		E-2(2)
15-18	E-2	漆・鉢	底19.2	灰黄色	1～4mmの小石をわずかに含む	良	内：ナデ?	外：スス付	E-2(1)
15-19	E-2	青・碗		胎土：灰白色 釉：灰オリーブ色	焼良	良好		E-2(4)	
15-20	E-2	青・碗		胎土：灰白色 釉：灰オリーブ色	焼良	良好	外：湯弁	E-2(5)	
15-21	E-3	土・皿	器1.1	褐色	砂粒を多く含む	良好	口内：回転ナデ 底：回転糸切り	E-3(1)	
15-22	F-7	瓦・碗	高台5.8	褐色	砂粒を含む	良好	内：じぎ状のナデ 外：ナデ 高台：ココナデ	F-7(1)	
15-23	F-14	瓦・壺	高台6.4	灰白色	砂粒を含む	良	底内：じぎ 高台：ココナデ	F-14(1)	
15-24	F-34	土・皿	口9.4 底6.5 器1.0	浅黄褐色	細砂粒をわずかに含む	良好	口：回転ナデ 底：回転糸切り	底：板状底	F-34(1)
15-25	F-45	漆・皿	器0.8	灰白色	砂粒を少し含む	良好	口：回転ナデ 底内：ナデ 底：回転糸切り	F-45(1)	
15-26	F-45	青・碗		胎土：灰白色 釉：灰オリーブ色	砂粒をわずかに含む	良好	口内：沈殿	内：沈殿	F-45(2)
15-27	F-66	土・皿	底5.6	浅黄褐色	砂粒をわずかに含む	良好	口：回転ナデ 底内：ナデ 底：回転糸切り	F-66(1)	
15-28	F-66	瓦・皿	口10.8 底7.6 器1.7	黄灰色	砂粒をわずかに含む	良好	口：回転ナデ 底内：回転ナデ 外：じぎキ、 ハナ目状の調整跡が見られる 底：へら切りナデ	F-66(2)	
15-29	F-61	瓦・皿	口17.6	灰白色	砂粒をわずかに含む	良好	口：回転ナデ 内：じぎキ 外：じぎキ、ココナデ	F-61(1)	
15-30	F-74	土・皿	口7.1 底5.6 器1.4	褐色	砂粒を含む	良好	口：回転ナデ 底内：ナデ 底：回転糸切り	F-74(1)	
15-31	F-78	瓦・皿	高台6.4	灰白色	細砂粒をわずかに含む	良好	底内：ナデ 底：ナデ? 高台：ココナデ	F-78(1)	
15-32	F-90	瓦・皿	口16.0 器4.8 高台5.4	灰色 口：埋戻色	砂粒を少し含む	良好	口：ココナデ (一部にじぎ) 内：ナデ? (一部にじぎ) 外：ナデ 高台：ココナデ	F-90(1)	
15-33	F-81	土・皿	口8.4 底6.5 器1.2	浅黄褐色	砂粒を含む	良好	口：回転ナデ 内：ナデ? 底：回転糸切り	底：板状底	F-81(1)
15-34	F-81	陶・壺		浅黄褐色 釉：褐色	砂粒を少し含む	良好	内：輪ナゲ取り、裏胎 外：裏胎	F-81(2)	
15-35	F-89	土・杯	底：10.4	にじみ・黄褐色	砂粒を含む	良好	内外：回転ナデ 底内：ナデ 底：回転糸切り	底：板状底	F-89(1)
15-36	F-90	土・皿	口7.6 底5.4 器1.4	にじみ・黄褐色	砂粒を少し含む	良好	口：回転ナデ 底内：ナデ 底：回転糸切り	F-90(1)	
15-37	F-107	土・皿	口9.0 底8.2 器1.1	褐色	砂粒を少し含む	良好	口：回転ナデ 底内：ナデ	F-107(3)	
15-38	F-107	青・碗	高台6.4	胎土：灰白色 釉：オリーブ灰色	細砂を若干含む	良好	高台内：無胎 内：片割れによる文様・沈殿	胎出し高台	F-107(2)
15-39	F-107	青・碗	口16.3 器6.8 高台6.5	胎土：灰褐色 釉：オリーブ灰色	やや粗い、0.1mm程度の 黒色粒を多量に含む	普通	高台内：無胎 内：片割れによる文様・沈殿	胎出し高台	F-107(1)
15-40	P-111	漆・壺	底11.2	灰白色	2～3mm程度の白色砂粒を 多量に含む	良好	内：強い横方向ナデ 外：タナハ後行回転ヘラズリ 底内：手押形裏ナデ? ナデナデ 底：回転ヘラズリ	P-111(1)	
15-41	P-161	瓦・皿	口17.4	にじみ・黄褐色	砂粒を含む	良	口：ココナデ 外下半：ココナデ	P-161(1)	
15-42	P-157	土・網		にじみ・褐色	1～2mmの砂を含む	良好	口：ハナ目 内：ナデ 外：ココナデ	P-157(1)	
15-43	P-179	青・碗	高台5.6	灰白色 釉：灰オリーブ色	砂粒をわずかに含む	良好	全体：裏胎 高台：輪ナゲ式作り	P-179(1)	

出土遺物観察表⑤



①調査区全景（東側上空より）



②調査区全景（真上より）



①K-2~4



⑤K-16·17



②K-7·8



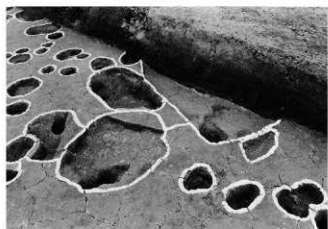
⑥K-17~21



③K-8



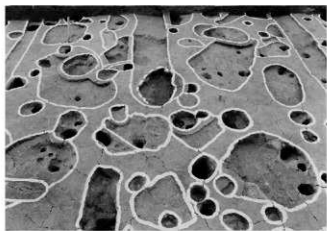
⑦K-27·28



④K-9~12



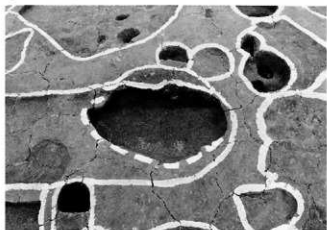
⑧K-29·30



①K-26 周辺



⑤K-61・D-8 土層



②K-34



⑥E-1 土層



③K-39



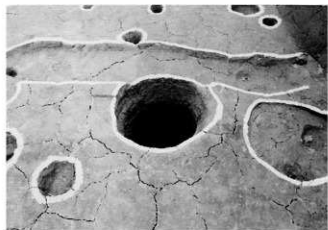
⑦E-1



④K-47



⑧E-2 土層



①E-2、D-6



⑤D-1護岸柵列裏側土層



②D-1



⑥D-1南北土層



③D-1護岸柵列



⑦D-1東西土層



④D-1護岸柵列



⑧D-1東西土層



①D-4・5



⑤D-10 調査区北壁土層



②D-6



⑥D-10 調査区南壁土層



③D-8・9 土層



⑦D-11・12

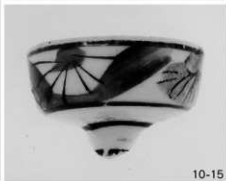
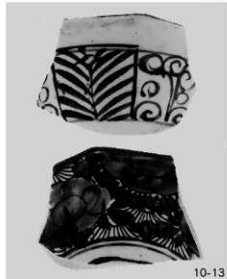
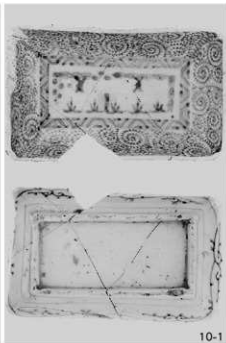


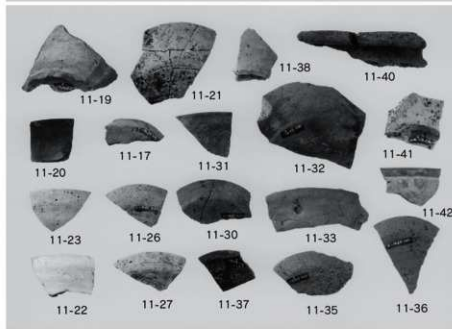
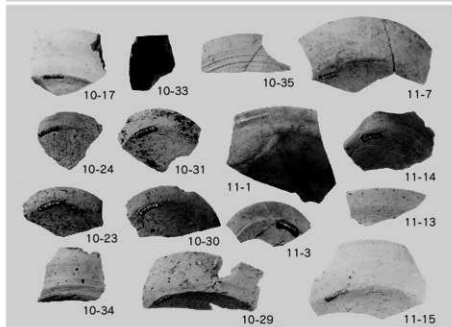
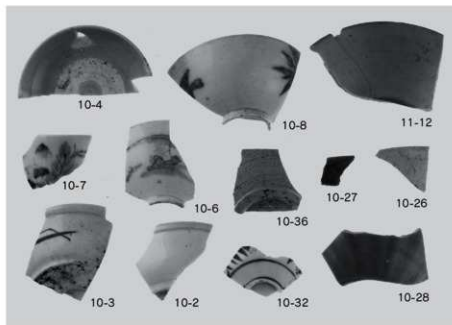
④D-8・9 他

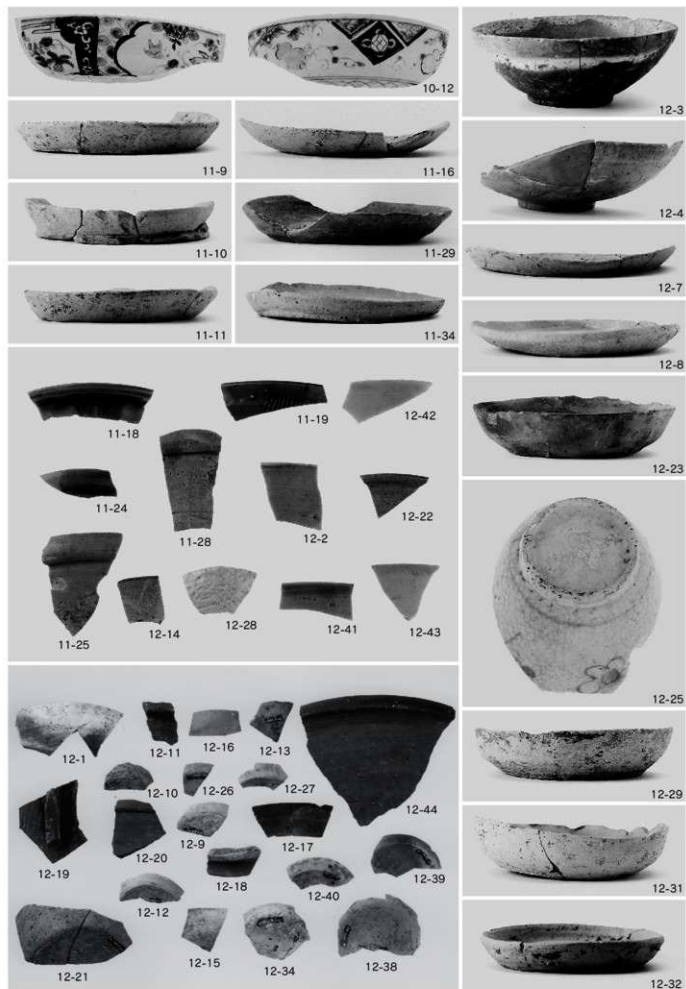


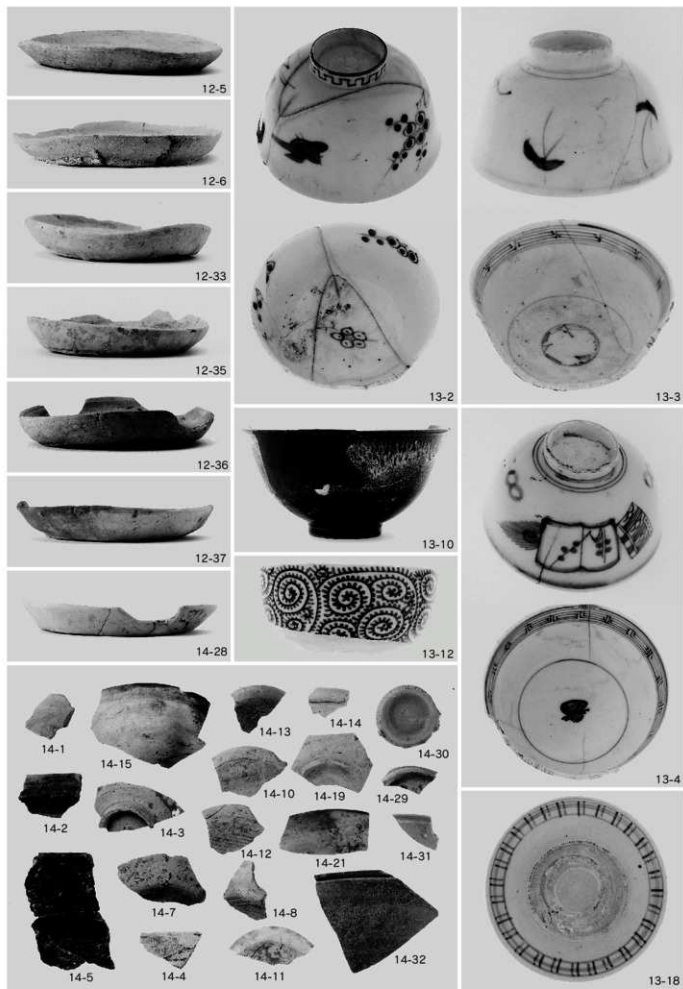
⑧作業風景

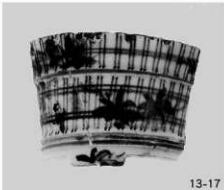
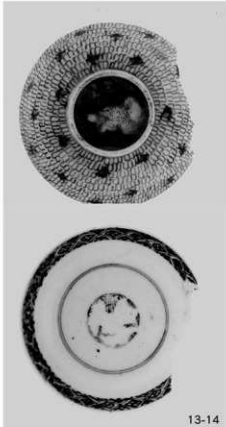
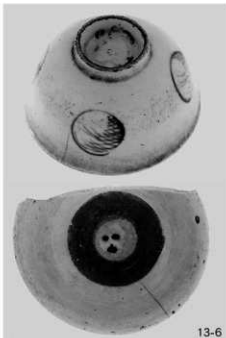




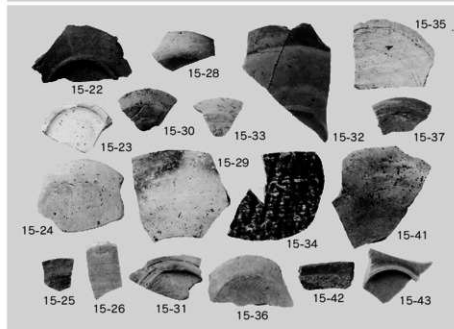
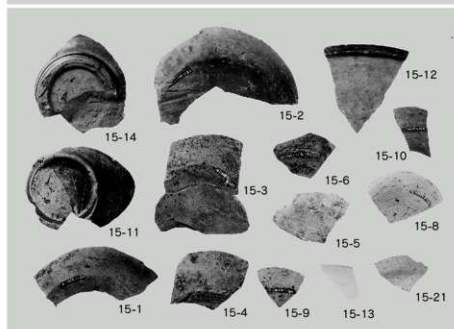
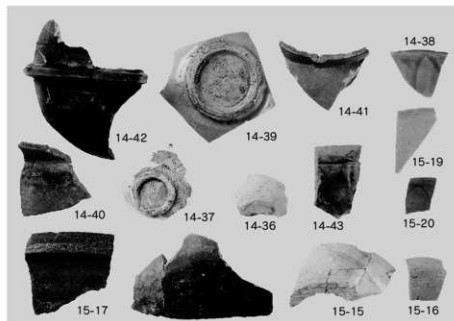












報告書抄録

ふりがな	やさかすえやすいせき							
書名	八坂末安遺跡							
副書名	福岡県小郡市八坂所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第215集							
編著者名	下原幸裕・佐藤雄史							
編集機関	小郡市教育委員会文化財課 小郡市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒838-0106 福岡県小郡市三沢5147-3 Tn0942-75-7555							
発行年月日	2007年(平成19年)3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
やさかすえやすいせき 八坂末安遺跡	ふくおかけん 福岡県  おごおりし 小郡市  やさか 八坂	40216		33° 21' 43"	130° 33' 49"	20060417 ~ 20060607	330㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
八坂末安遺跡	集落	室町時代 江戸時代		溝 井戸 土杭		陶磁器 土師器 瓦器		

八坂末安遺跡

小郡市文化財調査報告書

第215集

2007年3月31日

発行 小郡市教育委員会  
福岡県小郡市小郡255-1  
印刷 信光社印刷株式会社  
福岡県朝倉市一木32-1